

## 【表紙】

【提出書類】	訂正有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2021年12月21日提出
【発行者名】	楽天投信投資顧問株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 東 真之
【本店の所在の場所】	東京都港区南青山二丁目6番21号
【事務連絡者氏名】	石舘 真
【電話番号】	03-6432-7746
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	グローバルAZファンド Aコース グローバルAZファンド Bコース グローバルAZファンド Cコース グローバルAZファンド Dコース グローバルAZファンド Eコース
【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】	(1)当初申込額 グローバルAZファンド Aコース 100億円を上限とします。 グローバルAZファンド Bコース 100億円を上限とします。 グローバルAZファンド Cコース 100億円を上限とします。 グローバルAZファンド Dコース 100億円を上限とします。 グローバルAZファンド Eコース 100億円を上限とします。 (2)継続申込額 グローバルAZファンド Aコース 1兆円を上限とします。 グローバルAZファンド Bコース 1兆円を上限とします。 グローバルAZファンド Cコース 1兆円を上限とします。 グローバルAZファンド Dコース 1兆円を上限とします。 グローバルAZファンド Eコース 1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

有価証券報告書を提出しましたので2021年4月27日付をもって提出しました有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を新たな情報に訂正するため、また、記載事項の一部に訂正事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出します。

## 2【訂正の内容】

<訂正前>および<訂正後>に記載している下線部\_\_\_\_\_は訂正部分を示し、<更新後>に記載している内容は原届出書が更新されます。なお、「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」および「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」は原届出書の更新後の内容を記載しています。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### （1）【ファンドの目的及び基本的性格】

<更新後>

ファンドの特色

## 1 日本を含む先進国の株式および債券に分散投資します<sup>※</sup>

- ◆ 楽天グローバル株式マザーファンドおよび楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド（以下、両ファンドを総称して「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とします。
- ◆ マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を含む先進国の株式および債券を主要投資対象として広く分散投資を行うことで、リスク分散を図りながら収益の獲得を目指します。
- ◆ 楽天グローバル株式マザーファンド受益証券における実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド受益証券については、その主要投資対象とする投資信託証券を通じて、原則として実質組入外貨建資産の対円での為替ヘッジを行います。  
※「Eコース」は、楽天グローバル株式マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、実質的に日本を含む先進国の株式に分散投資します。

## 2 資金の特性に応じて、5種類のファンドからお選びいただけます

- ◆ リスク許容度等、資金の特性に応じて「Aコース」、「Bコース」、「Cコース」、「Dコース」、「Eコース」の5つのファンドよりお選びいただけます。
- ◆ 各ファンドにおける、マザーファンドを通じた先進国株式および債券の基本組入比率は以下の通りとします。

ファンド名	先進国株式	先進国債券
	楽天グローバル株式マザーファンド	楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド
Aコース	10%	90%
Bコース	30%	70%
Cコース	50%	50%
Dコース	70%	30%
Eコース	100%	0%

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

### 3 学術的研究をベースにした、ディメンショナル独自の投資哲学による運用

- ◆マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドが運用する投資信託証券へ投資します。

※ディメンショナルは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドおよびその関係会社の総称です。また、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッドは、ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・エルピー（米国）の子会社です。

#### 【ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズとは？】

- ◆投資哲学に賛同する機関投資家やFA（ファイナンシャル・アドバイザー）からの絶大な支持を受け、世界有数の運用会社としての地位を確立しています。

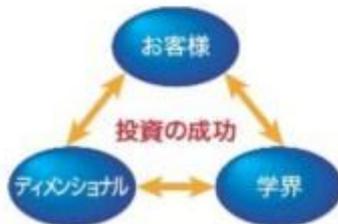


出所：ディメンショナル

※2021年3月31日現在、1米ドル=110.71円で換算

各拠点はディメンショナルのオフィス所在地です。“ディメンショナル”と記載がある場合、特定の事業体を示すものではなく、世界各国に展開するディメンショナルのグループ企業であるDimensional Fund Advisors LP, Dimensional Fund Advisors Ltd., Dimensional Ireland Limited, DFA Australia Limited, Dimensional Fund Advisors Canada ULC, Dimensional Fund Advisors Pte. Ltd., Dimensional Japan Ltd.とDimensional Hong Kong Limitedを指します。

- ◆多くの著名学者をコンサルタントとして抱え、実証研究に裏付けされた運用手法を採用するほか、学術界や顧客との継続的な対話により、常に新たな運用手法を模索しています。



- ・学術研究の先導者たちによる研究によって、リスクとリターンに関する新たな知見を得ます。
- ・ディメンショナルが投資戦略を立案し、顧客からの反応を学術研究者に伝え、さらなる検証と改善を加えます。
- ・実際の投資戦略により忠実な形で実証研究を続け、さらに堅固な理論や、経済学の知見に基づいた投資戦略を実現させます。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

## 【ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズの先進国株式運用の特徴】

◆学術的研究により、持続性や信頼性が確認された収益源に着目します。

### ●三つのポイント

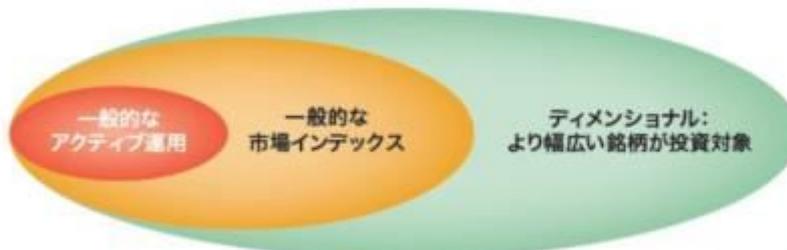
- 企業規模  
企業規模の相対的に小さい銘柄の比重を高めます
- 相対価格  
相対的に割安な銘柄の比重を高めます
- 期待収益力  
相対的に収益力の優れた銘柄の比重を高めます

〈ディメンショナルの先進国株式運用のポートフォリオイメージ〉



◆幅広い銘柄に分散投資します。

〈投資対象銘柄のイメージ〉



幅広い銘柄に分散投資することにより、安定的・継続的に一般的な市場インデックスを上回るリターンをあげることが目指します

※ここでいう一般的な市場インデックスとは、MSCIワールド・インデックスを指します。MSCIワールド・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した指数で、先進国株式の代表的な指数です。

◆柔軟かつ先進的なトレード手法により、取引コストなどの経費を最小限に抑制することを目指します。

従来のアクティブ運用	ディメンショナルの運用	インデックス運用
個別銘柄選定やファンダメンタルズ分析を重視するため、個別銘柄や景気分析にかかる人的コストや高い売買回転率に伴う取引コストがかさむ傾向があります	学術的実証データに基づいたポートフォリオ構築と柔軟かつ先進的なトレード手法により、取引コストなどの経費を抑制します	特定の指数に追随することを目指すため、指数の銘柄入れ替えに伴う直接、間接の取引コストがかさむ傾向があります

上記はディメンショナル・ファンド・アドバイザーズの先進国株式運用のイメージであり、特徴やその内容のすべてを表したものではありません。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

## 【ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズの世界債券運用の特徴】

◆学術的研究により、持続性や信頼性が確認された収益源に着目します。

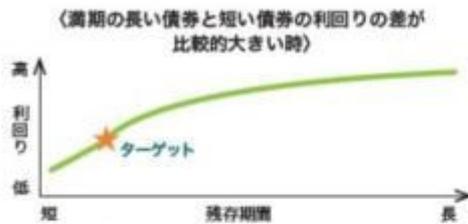
●二つのポイント

—期間プレミアム(=満期までの期間に応じた収益期待)

—クレジット(信用)プレミアム(=発行体の信用リスクの対価としての収益期待)

◆市場環境に合わせて、ポートフォリオの「満期までの残存期間別構成」と「格付別構成」を機動的に調整します。

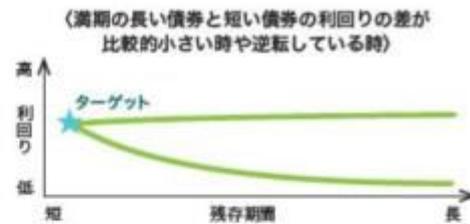
●満期までの残存期間別構成を調整する戦略(期間プレミアムに着目)



★上記市場環境時のポートフォリオイメージ



満期の長い債券の比重を増やす

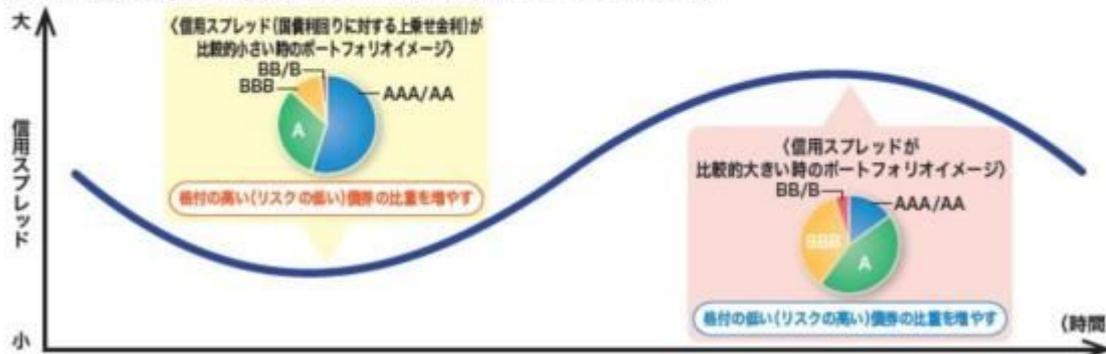


★上記市場環境時のポートフォリオイメージ



満期の短い債券の比重を増やす

●格付別構成を調整する戦略(クレジット(信用)プレミアムに着目)



◆個別銘柄やマクロ経済の分析にかかるコストや取引コストなどの経費を最小限に抑制することを目指します。

—学術的実証データに基づいたポートフォリオ構築により、個別銘柄や景気分析にかかる人的コストを抑制します

—柔軟かつ先進的なトレード手法により、取引コストを抑制します

上記はディメンショナル・ファンド・アドバイザーズの世界債券運用のイメージであり、特徴やその内容のすべてを表したものではありません。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

## ファンドの仕組み

### ●Aコース/Bコース/Cコース/Dコース

各ファンドは、「楽天グローバル株式マザーファンド」および「楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド」を親投資信託（「マザーファンド」）とするファミリーファンド方式で運用します。

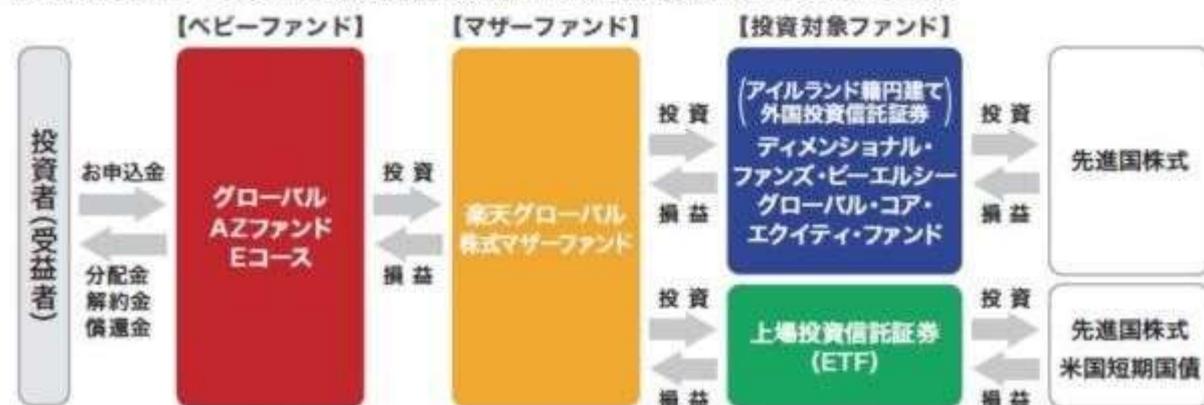
また、マザーファンドへの投資を通じて、先進国の株式および債券に分散投資する投資信託証券に投資します。なお、マザーファンドでは、投資対象ファンドのうち外国投資信託証券の組入れを高位に維持することを基本とします。



### ●Eコース

当ファンドは、「楽天グローバル株式マザーファンド」を親投資信託（「マザーファンド」）とするファミリーファンド方式で運用します。

また、マザーファンドへの投資を通じて、先進国株式に分散投資する投資信託証券に投資します。なお、マザーファンドでは、投資対象ファンドのうち外国投資信託証券の組入れを高位に維持することを基本とします。



※投資対象ファンドについて、くわしくは、「投資対象ファンドの概要」をご参照下さい。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

## 主な投資制限

---

- マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。
- 投資信託証券への実質投資割合には制限を設けません。
- 外貨建資産への直接投資は行いません。
- 株式への直接投資は行いません。
- デリバティブの直接利用は行いません。

## 分配方針

---

- 毎年9月20日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います。ただし、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価損益を含む）等の全額とします。
- 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。必ずしも分配が行われるものではありません。

資金動向、市況動向等に急激な変化が生じたとき等、ならびに投資信託財産の規模によっては、また、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

### （3）【ファンドの仕組み】

< 更新後 >

委託会社の概況（2021年9月末現在）

- 1) 資本金  
150百万円

## 2) 沿革

- 2006年12月28日 「楽天投信株式会社」設立
- 2008年 1月31日 金融商品取引業者登録 [関東財務局長（金商）第1724号]
- 2009年 4月 1日 株式会社ポラスター投資顧問と合併、商号を「楽天投信投資顧問株式会社」に変更

## 3) 大株主の状況

名 称	住 所	所有株数	所有比率
楽天カード株式会社	東京都港区南青山二丁目6番21号	13,000株	100%

## 2【投資方針】

## (2)【投資対象】

## &lt;訂正前&gt;

- <グローバルAZファンド Aコース>
- <グローバルAZファンド Bコース>
- <グローバルAZファンド Cコース>
- <グローバルAZファンド Dコース>
- (略)
- <グローバルAZファンド Eコース>
- (略)
- <楽天グローバル株式マザーファンド>
- (略)

有価証券届出書提出日現在「別に定める投資信託証券」は、「(参考)マザーファンドが投資対象とする投資信託証券(投資対象ファンド)の概要」の通りとします。

- <楽天・世界債券コア(為替ヘッジ付)マザーファンド>
- (略)

有価証券届出書提出日現在「別に定める投資信託証券」は、「(参考)マザーファンドが投資対象とする投資信託証券(投資対象ファンド)の概要」の通りとします。

## &lt;訂正後&gt;

- <グローバルAZファンド Aコース>
- <グローバルAZファンド Bコース>
- <グローバルAZファンド Cコース>
- <グローバルAZファンド Dコース>
- (略)
- <グローバルAZファンド Eコース>
- (略)
- <楽天グローバル株式マザーファンド>
- (略)

2021年9月末現在「別に定める投資信託証券」は、「(参考)マザーファンドが投資対象とする投資信託証券(投資対象ファンド)の概要」の通りとします。

- <楽天・世界債券コア(為替ヘッジ付)マザーファンド>
- (略)

2021年9月末現在「別に定める投資信託証券」は、「（参考）マザーファンドが投資対象とする投資信託証券（投資対象ファンド）の概要」の通りとします。

<訂正前>

投資対象とするマザーファンドの概要

<楽天グローバル株式マザーファンド>

（略）

<楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド>

（略）

（参考）マザーファンドが投資対象とする投資信託証券（投資対象ファンド）の概要

下記概要は、有価証券届出書提出日現在で委託会社が知り得る情報を基に作成しています。

## 1. 楽天グローバル株式マザーファンド

### 主要投資対象とする投資信託証券

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド				
形態	（略）				
運用目的および主な運用方針	（略）				
主な投資制限	（略）				
申込手数料	（略）				
管理報酬等	<p>ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。</p> <p>管理報酬等（実績）：年0.29%（2021年3月31日現在）</p> <table border="1"> <tr> <td>運用報酬</td> <td>年0.22%<sup>*</sup></td> </tr> <tr> <td>その他の費用</td> <td>（略）</td> </tr> </table>	運用報酬	年0.22% <sup>*</sup>	その他の費用	（略）
運用報酬	年0.22% <sup>*</sup>				
その他の費用	（略）				
信託財産留保額	（略）				
決算日	（略）				
投資顧問会社	（略）				

\* 2021年5月4日以降に適用される運用報酬率です。

（略）

## 2. 楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド

### 主要投資対象とする投資信託証券

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ファンド
形態	（略）
運用目的および主な運用方針	（略）

主な投資制限	(略)				
申込手数料	(略)				
管理報酬等	<p>ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。</p> <p>管理報酬等（実績）：年0.28%（2021年3月31日現在）</p> <table border="1"> <tr> <td>運用報酬</td> <td>(略)</td> </tr> <tr> <td>その他の費用</td> <td>(略)</td> </tr> </table>	運用報酬	(略)	その他の費用	(略)
運用報酬	(略)				
その他の費用	(略)				
信託財産留保額	(略)				
決算日	(略)				
投資顧問会社	(略)				

(略)

<訂正後>

投資対象とするマザーファンドの概要

<楽天グローバル株式マザーファンド>

(略)

<楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド>

(略)

(参考) マザーファンドが投資対象とする投資信託証券（投資対象ファンド）の概要

下記概要は、2021年9月末現在で委託会社が知り得る情報を基に作成しています。

#### 1. 楽天グローバル株式マザーファンド

##### 主要投資対象とする投資信託証券

ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド				
形態	(略)				
運用目的および主な運用方針	(略)				
主な投資制限	(略)				
申込手数料	(略)				
管理報酬等	<p>ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。</p> <p>管理報酬等（実績）：年0.26%（2021年9月30日現在）</p> <table border="1"> <tr> <td>運用報酬</td> <td>年0.22%</td> </tr> <tr> <td>その他の費用</td> <td>(略)</td> </tr> </table>	運用報酬	年0.22%	その他の費用	(略)
運用報酬	年0.22%				
その他の費用	(略)				
信託財産留保額	(略)				
決算日	(略)				
投資顧問会社	(略)				

（略）

## ２．楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド

### 主要投資対象とする投資信託証券

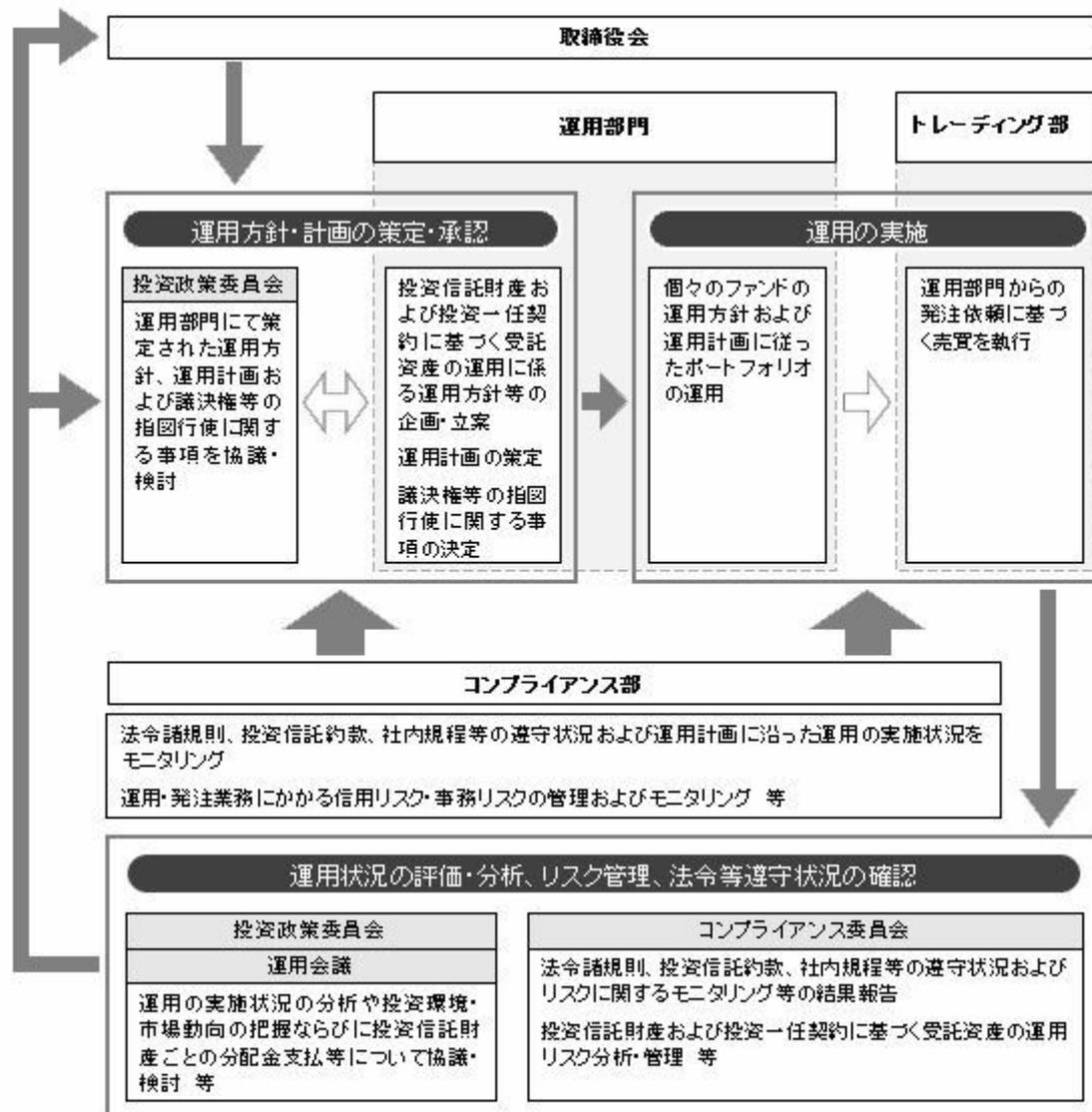
ファンド名	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ファンド					
形態	（略）					
運用目的および主な運用方針	（略）					
主な投資制限	（略）					
申込手数料	（略）					
管理報酬等	<p>ファンドでは、管理報酬等として運用報酬およびその他の費用がかかります。</p> <p>管理報酬等（実績）：年0.28%（2021年9月30日現在）</p> <table border="1"> <tr> <td>運用報酬</td> <td>（略）</td> </tr> <tr> <td>その他の費用</td> <td>（略）</td> </tr> </table>		運用報酬	（略）	その他の費用	（略）
運用報酬	（略）					
その他の費用	（略）					
信託財産留保額	（略）					
決算日	（略）					
投資顧問会社	（略）					

（略）

### （３）【運用体制】

<更新後>

委託会社における運用体制は、以下の通りです。



- ・「投資政策委員会」は、代表取締役が直轄する会議体として、運用部門が策定する運用計画、議決権等の指図行使に関する事項、ならびに投資信託財産および投資一任契約に基づく受託資産の運用に関する運用方針等その他の重要事項を協議・検討します。
- ・「運用会議」は、決定された運用計画を受けて、投資信託財産、または投資一任契約に基づく受託資産ごとの具体的な運用に関する事項、ならびに投資信託財産ごとの分配金支払等について協議・検討します。（但し、運用会議において協議・検討された事項で重要なものと判断される事項については投資政策委員会に報告します。）
- ・運用部門は「投資政策委員会」で決定された運用計画に従って運用を実行します。
- ・「コンプライアンス委員会」は、コンプライアンスおよびリスク管理に関する社内規程等、それらに関する具体的施策、ならびにそれらに関する重要な事項について協議・検討を行います。また、法令諸規則等の遵守状況および各種リスクに関するモニタリング等の結果報告を受け、それらについて必要な事項を協議・検討します。
- ・コンプライアンス部は、投資信託財産および投資一任契約に基づく受託資産の投資信託約款および運用ガイドライン等、法令諸規則等の遵守状況のモニタリングに関する業務ならびに投資信託財産および投資一任契約に基づく受託資産の運用リスク管理に関する業務等を行います。

当社では、ファンドの適正な運用、受益者との利益相反となる取引の未然防止を目的として「内部者取引管理規程」「利益相反管理規程」等の社内規程を設けております。また、「運用の基本方針」「運用業務規程」「運用管理規程」等を設け、ファンドの運用に関する基本的な事項を定めています。

上記体制は2021年9月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

### 3【投資リスク】

## &lt; 訂正前 &gt;

## ( 1 ) 基準価額の変動要因およびその他の留意点

( 略 )

## &lt; その他の留意点 &gt;

～ ( 略 )

投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

## &lt; 訂正後 &gt;

## ( 1 ) 基準価額の変動要因およびその他の留意点

( 略 )

## &lt; その他の留意点 &gt;

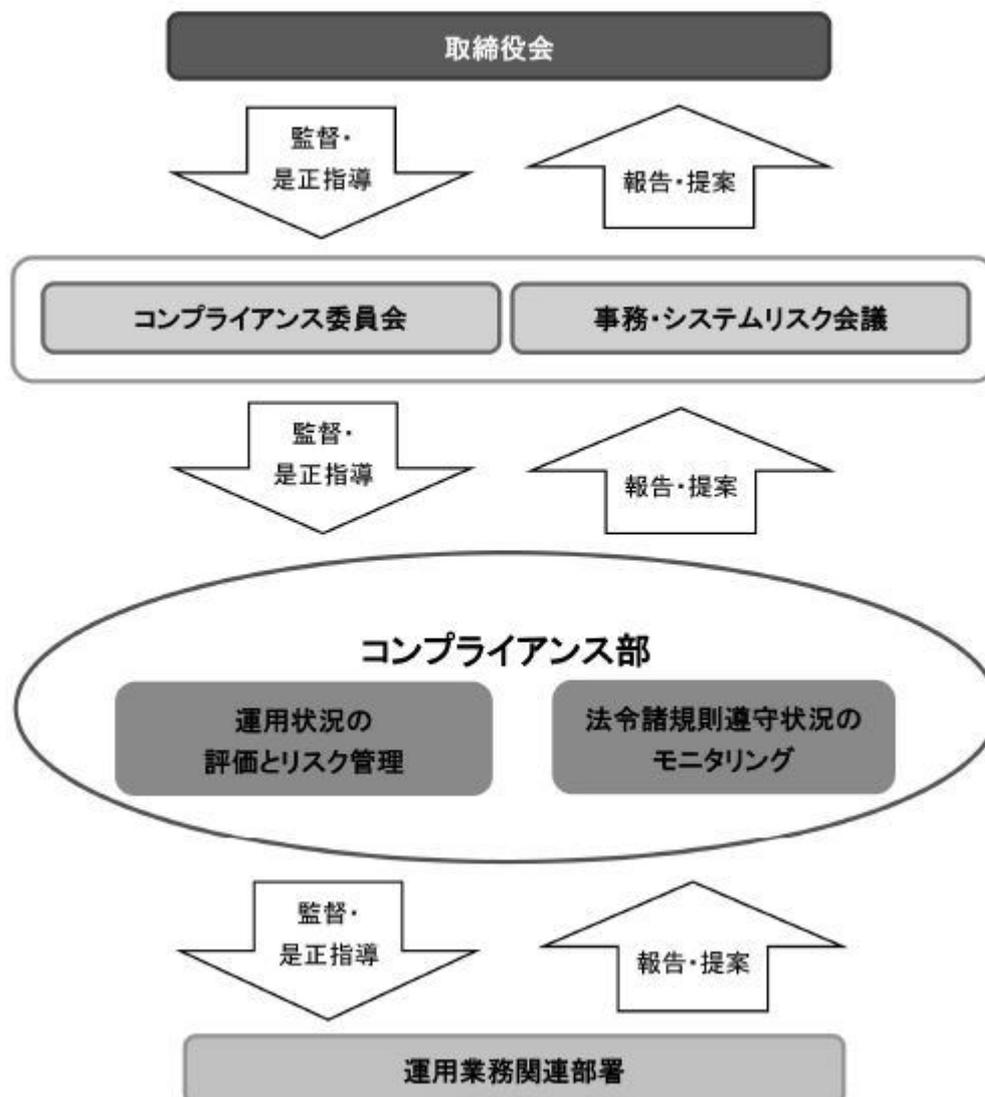
～ ( 略 )

投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金移動等に伴う売買等が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

## &lt; 更新後 &gt;

## ( 2 ) リスク管理体制

委託会社におけるリスク管理体制は以下の通りです。



**\*全社的リスク管理**

委託会社では、コンプライアンス部を設置し全社的なリスク管理を行っています。法令諸規則等の遵守状況やリスク管理状況については、コンプライアンス委員会や事務・システムリスク会議を通じて取締役会に報告されます。

また、コンプライアンス部は各種リスク（運用リスク、事務システムリスクなど）に関するモニタリングとその報告やリスクの低減にかかる施策などの構築を行っています。

**\*運用状況の評価・分析とリスク管理**

コンプライアンス部は、投資信託財産についての運用状況の評価・分析と運用プロセスおよびリスク管理状況のモニタリングを行い、その評価と分析の結果をコンプライアンス委員会に報告し、必要に応じて関連部にその対応等を指示し、適切な管理を行います。また、コンプライアンス委員会の内容は、毎月取締役会に報告されます。

上記体制は2021年9月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

< 更新後 >

## 参考情報

### ■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

#### グローバルAZファンド Aコース

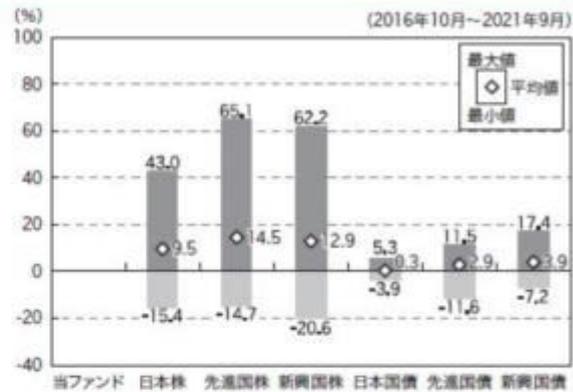


※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

### ■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよう、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

### ■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

#### グローバルAZファンド Bコース



※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

### ■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよう、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

## ■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

### グローバルAZファンド Cコース



※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

## ■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

### グローバルAZファンド Dコース

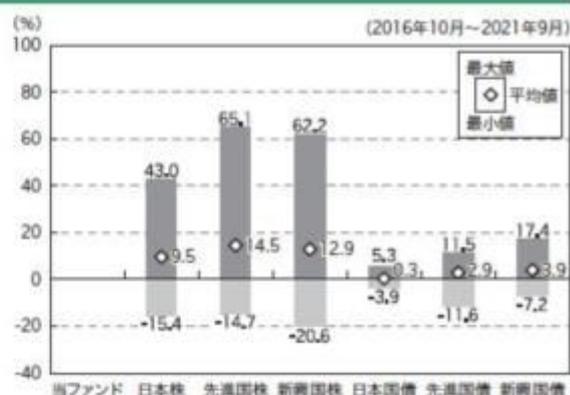


※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

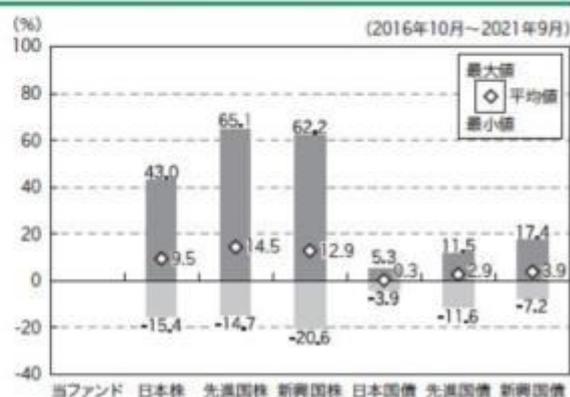
## ■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよう、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

## ■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよう、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

## ■ ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

### グローバルA Zファンド Eコース



※上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率および分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。(当ファンドの設定日以降で、算出可能な期間についてのみ表示しています。)

※当ファンドの年間騰落率は、運用期間が1年に満たないため、表示しておりません。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額であり、実際の基準価額と異なる場合があります。(分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。)

## ■ ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよう、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。なお、当ファンドの運用期間が1年に満たないため、当ファンドの騰落率は表示しておりません。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの騰落率は以下の各指数の騰落率です。

日本株・・・S&P日本総合指数(トータル・リターン、円ベース)

先進国株・・・S&P先進国総合指数(除く日本、トータル・リターン、円換算ベース)

新興国株・・・S&P新興国総合指数(トータル・リターン、円換算ベース)

日本国債・・・ブルームバーグ・グローバル国債:日本インデックス(円ベース)

先進国債・・・ブルームバーグ・グローバル国債(日本除く)インデックス(円ベース)

新興国債・・・ブルームバーグ新興市場自国通貨建て高流動性国債インデックス(円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※上記各指数に関する知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

## 4【手数料等及び税金】

### (3)【信託報酬等】

#### <訂正前>

信託報酬

(略)

信託報酬の配分

(略)

各ファンドの信託報酬のほかに、マザーファンドを通じて投資する投資信託証券で、管理報酬等が別途かかります。従って、各ファンドにおける実質的な信託報酬率は以下の通りです。

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース	Eコース
投資対象とする投資信託証券における報酬 <sup>*1</sup>	年0.281% 程度	年0.283% 程度	年0.285% 程度	年0.287% 程度	年0.290% 程度
実質的な信託報酬率 <sup>*2</sup>	年1.0785% (税込)程度	年1.1905% (税込)程度	年1.3025% (税込)程度	年1.4145% (税込)程度	年1.5275% (税込)程度

\*1 2021年3月31日現在。今後、投資内容等によりこの数値は変動します。

- \* 2 実質的な信託報酬率は、マザーファンドを通じて投資する投資信託証券における報酬を加味した実質的な信託報酬の概算値です。この値は目安であり、実際の投資信託証券の組入状況、運用状況等によって変動します。

投資信託証券の信託報酬等については、「第1 ファンドの状況 2 投資方針 (2) 投資対象 (参考) マザーファンドが投資対象とする投資信託証券 (投資対象ファンド) の概要」をご参照ください。

支払時期  
(略)

<訂正後>

信託報酬  
(略)

信託報酬の配分  
(略)

各ファンドの信託報酬のほかに、マザーファンドを通じて投資する投資信託証券で、管理報酬等が別途かかります。従って、各ファンドにおける実質的な信託報酬率は以下の通りです。

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース	Eコース
投資対象とする投資信託証券における報酬 <sup>*1</sup>	年0.278% 程度	年0.274% 程度	年0.270% 程度	年0.266% 程度	年0.260% 程度
実質的な信託報酬率 <sup>*2</sup>	年1.0755% (税込)程度	年1.1815% (税込)程度	年1.2875% (税込)程度	年1.3935% (税込)程度	年1.4975% (税込)程度

\* 1 2021年9月30日現在。今後、投資内容等によりこの数値は変動します。

\* 2 実質的な信託報酬率は、マザーファンドを通じて投資する投資信託証券における報酬を加味した実質的な信託報酬の概算値です。この値は目安であり、実際の投資信託証券の組入状況、運用状況等によって変動します。

投資信託証券の信託報酬等については、「第1 ファンドの状況 2 投資方針 (2) 投資対象 (参考) マザーファンドが投資対象とする投資信託証券 (投資対象ファンド) の概要」をご参照ください。

支払時期  
(略)

## (5) 【課税上の取扱い】

<更新後>

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

個人受益者の場合

### 1) 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については配当所得として、20.315% (所得税15.315% および地方税5%) の税率による源泉徴収 (原則として、確定申告は不要です。) が行なわれます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税 (配当控除の適用はありません。) のいずれかを選択することもできます。

### 2) 解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益 (譲渡益)<sup>\*</sup> については譲渡所得として、20.315% (所得税15.315% およ

び地方税5%)の税率による申告分離課税の対象となり、確定申告が必要となります。なお、源泉徴収ありの特定口座(源泉徴収選択口座)を選択している場合は、20.315%(所得税15.315%および地方税5%)の税率による源泉徴収(原則として、確定申告は不要です。)が行なわれます。

\*解約価額および償還価額から取得費用(申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額を含みます。)を控除した利益

確定申告等により、解約時および償還時の差損(譲渡損失)については、上場株式等の譲渡益、上場株式等の配当等および特定公社債等の利子所得(申告分離課税を選択したものに限ります。)と損益通算が可能です。また、解約時および償還時の差益(譲渡益)、普通分配金および特定公社債等の利子所得(申告分離課税を選択したものに限ります。)については、上場株式等の譲渡損失と損益通算が可能です。

少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。なお、他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

#### 法人受益者の場合

##### 1) 収益分配金、解約金、償還金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として、15.315%(所得税のみ)の税率による源泉徴収が行なわれます。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて法人税から控除される場合があります。

##### 2) 益金不算入制度の適用

益金不算入制度は適用されません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

#### 個別元本

##### 1) 各受益者の買付時の基準価額(申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。)が個別元本になります。

##### 2) 受益者が同一ファンドを複数回お申込みの場合、1口当たりの個別元本は、申込口数で加重平均した値となります。ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

#### 普通分配金と元本払戻金(特別分配金)

##### 1) 収益分配金には課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

##### 2) 受益者が収益分配金を受け取る際

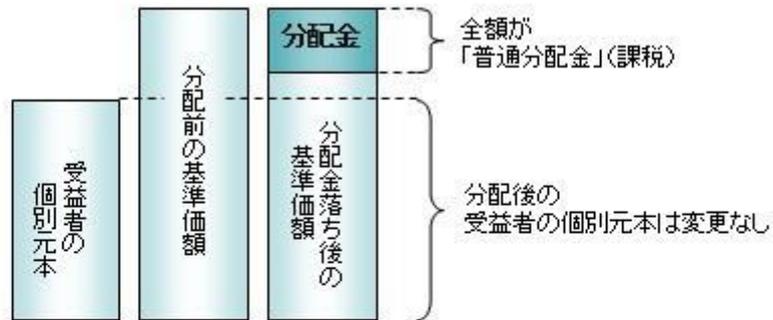
イ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本と同額かまたは上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

ロ) 収益分配金落ち後の基準価額が、受益者の1口当たりの個別元本を下回っている場合には、収益分配金の範囲内でその下回っている部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、収益分配金から元本払戻金(特別分配金)を控除した金額が普通分配金となります。

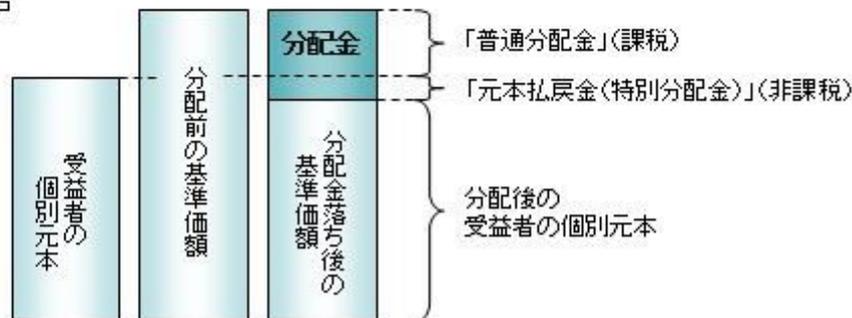
ハ) 収益分配金発生時に、その個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。

## &lt;分配金に関するイメージ図&gt;

イ) の場合



ロ)、ハ) の場合



外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

上記は2021年9月末現在のものですので、税法が改正された場合などには、税率などの課税上の取扱いが変更になる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家などにご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

## 【グローバルA Zファンド Aコース】

以下の運用状況は2021年 9月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## (1)【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	75,692,189	99.95
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		39,130	0.05
合計(純資産総額)		75,731,319	100.00

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## イ. 評価額上位銘柄明細

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
------	----	-----	--------------	-------------------	-------------------	------------------	------------------	-----------------

日本	親投資信託受益証券	楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド	67,302,384	1.0209	68,709,003	1.0089	67,901,375	89.66
日本	親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	3,832,365	1.9801	7,588,465	2.0329	7,790,814	10.29

## ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.95
合計	99.95

### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

### 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## （3）【運用実績】

### 【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1計算期間末 (2021年 9月21日)	76	76	1.0196	1.0196
2021年 5月末日	1		1.0072	
6月末日	1		1.0146	
7月末日	76		1.0268	
8月末日	76		1.0253	
9月末日	75		1.0112	

### 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	0.0000

### 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	1.96

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

#### （４）【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	74,888,187	0

(注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

#### 【グローバルA Zファンド Bコース】

以下の運用状況は2021年 9月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

#### （１）【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	76,300,394	99.95
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		38,647	0.05
合計（純資産総額）		76,339,041	100.00

#### （２）【投資資産】

##### 【投資有価証券の主要銘柄】

##### イ. 評価額上位銘柄明細

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド	52,503,592	1.0209	53,600,917	1.0089	52,970,873	69.39
日本	親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	11,475,981	1.9801	22,723,589	2.0329	23,329,521	30.56

##### ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.95
合計	99.95

##### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

##### 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

### (3) 【運用実績】

#### 【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1計算期間末 (2021年 9月21日)	76	76	1.0227	1.0227
2021年 5月末日	1		1.0140	
6月末日	1		1.0220	
7月末日	76		1.0326	
8月末日	77		1.0357	
9月末日	76		1.0221	

#### 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	0.0000

#### 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	2.27

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

### (4) 【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	74,691,173	0

(注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

#### 【グローバルA Zファンド Cコース】

以下の運用状況は2021年 9月30日現在です。

- ・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

### (1) 【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	93,352,382	99.96
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		36,964	0.04
合計（純資産総額）		93,389,346	100.00

## （２）【投資資産】

### 【投資有価証券の主要銘柄】

#### イ. 評価額上位銘柄明細

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	22,992,169	1.9801	45,526,793	2.0329	46,740,780	50.05
日本	親投資信託受益証券	楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド	46,200,419	1.0209	47,166,007	1.0089	46,611,602	49.91

#### ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.96
合計	99.96

### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

### 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## （３）【運用実績】

### 【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1計算期間末 (2021年 9月21日)	92	92	1.0262	1.0262
2021年 5月末日	1		1.0208	
6月末日	6		1.0294	
7月末日	82		1.0387	
8月末日	84		1.0463	
9月末日	93		1.0331	

## 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	0.0000

## 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	2.62

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

## （４）【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	90,393,165	0

(注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

## 【グローバルA Zファンド Dコース】

以下の運用状況は2021年 9月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## （１）【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	120,488,517	99.98
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		29,860	0.02
合計（純資産総額）		120,518,377	100.00

## （２）【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## イ. 評価額上位銘柄明細

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
日本	親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	41,536,265	1.9812	82,293,159	2.0329	84,439,073	70.06

日本	親投資信託受益証券	楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド	35,731,435	1.0201	36,452,450	1.0089	36,049,444	29.91
----	-----------	--------------------------	------------	--------	------------	--------	------------	-------

## ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.98
合計	99.98

### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

### 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## （３）【運用実績】

### 【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1計算期間末 (2021年 9月21日)	108	108	1.0293	1.0293
2021年 5月末日	1		1.0275	
6月末日	6		1.0369	
7月末日	89		1.0446	
8月末日	109		1.0569	
9月末日	120		1.0445	

### 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	0.0000

### 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	2.93

(注) 各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

## （４）【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	104,943,288	0

(注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

## 【グローバルAZファンド エコース】

以下の運用状況は2021年 9月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## （１）【投資状況】

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	44,848,829	99.94
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		28,412	0.06
合計（純資産総額）		44,877,241	100.00

## （２）【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## イ. 評価額上位銘柄明細

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	22,061,503	1.9802	43,686,582	2.0329	44,848,829	99.94

## ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	99.94
合計	99.94

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

## ( 3 ) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	分配落ち	分配付き	分配落ち	分配付き
第1計算期間末 (2021年 9月21日)	42	42	1.0337	1.0337
2021年 5月末日	1		1.0377	
6月末日	1		1.0480	
7月末日	2		1.0534	
8月末日	3		1.0728	
9月末日	44		1.0609	

## 【分配の推移】

期	期間	1口当たりの分配金（円）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	0.0000

## 【収益率の推移】

期	期間	収益率（％）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	3.37

(注)各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち、以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

## ( 4 ) 【設定及び解約の実績】

期	期間	設定口数（口）	解約口数（口）
第1期	2021年 5月14日～2021年 9月21日	41,091,278	0

(注)第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

## ( 参考 )

楽天グローバル株式マザーファンド

以下の運用状況は2021年 9月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	アメリカ	14,272	0.00
	アイルランド	3,312,411,288	99.37
	小計	3,312,425,560	99.37
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		20,861,761	0.63
合計（純資産総額）		3,333,287,321	100.00

## 投資資産

## 投資有価証券の主要銘柄

## イ. 評価額上位銘柄明細

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
アイルランド	投資信託受益証券	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	1,625,723.332	2,048.41	3,330,147,930	2,037.5	3,312,411,288	99.37
アメリカ	投資信託受益証券	iShares MSCI World ETF	1	14,755.00	14,755	14,272.00	14,272	0.00

## ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率（％）
投資信託受益証券	99.37
合計	99.37

## 投資不動産物件

該当事項はありません。

## その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

## 楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド

以下の運用状況は2021年 9月30日現在です。

・投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## 投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	日本	10,160	0.00
	アイルランド	200,322,146	98.43
	小計	200,332,306	98.43

現金・預金・その他の資産(負債控除後)		3,193,534	1.57
合計(純資産総額)		203,525,840	100.00

## 投資資産

### 投資有価証券の主要銘柄

#### イ. 評価額上位銘柄明細

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
アイルランド	投資信託受益証券	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ファンド	190,646.82	1,063.36	202,727,915	1,050.75	200,322,146	98.43
日本	投資信託受益証券	NEXT FUNDS 外国債券・FTSE世界国債インデックス(除く日本・為替ヘッジあり) 連動型上場投信	10	1,027	10,270	1,016	10,160	0.00

#### ロ. 種類別の投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	98.43
合計	98.43

### 投資不動産物件

該当事項はありません。

### その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

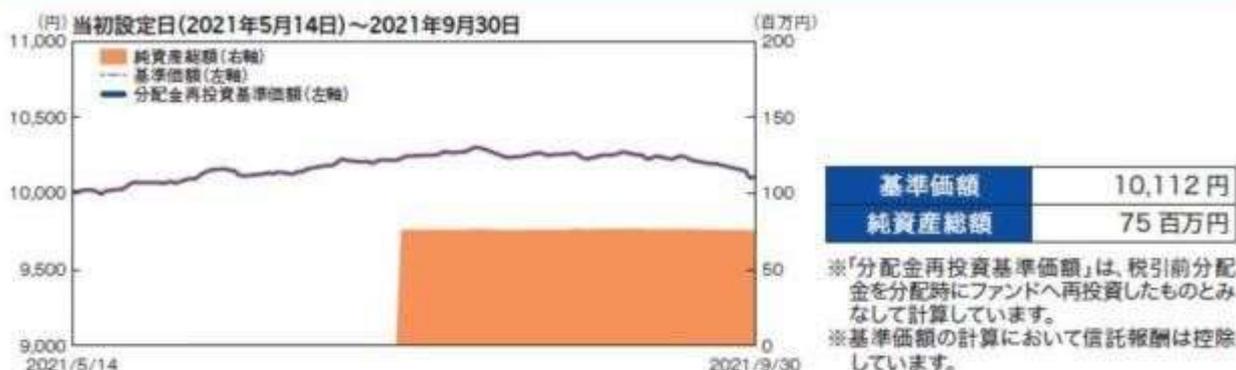
### 参考情報

### 運用実績

## グローバルAZファンド Aコース

2021年9月30日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

### 基準価額・純資産の推移



### 分配の推移 (10,000口当たり、税引前)

決算期	第1期 2021年9月	設定来累計
分配金	0円	0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。分配金が支払われない場合もあります。

### 主要な資産の状況

#### 楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	99.4%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを10.3%組入れています。

#### 楽天・世界債券コア (為替ヘッジ付)マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	98.4%
NEXT FUNDS 外国債券・FTSE世界国債インデックス (除く日本・為替ヘッジあり)連動型上場投信	投資信託証券	日本	円	0.0%

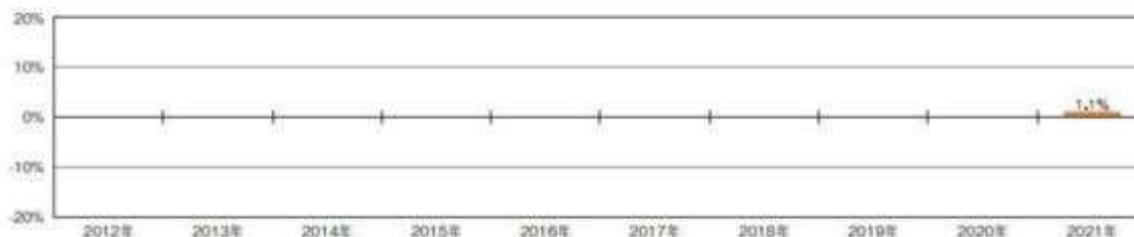
※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを89.7%組入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

### 年間収益率の推移 (暦年ベース)

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

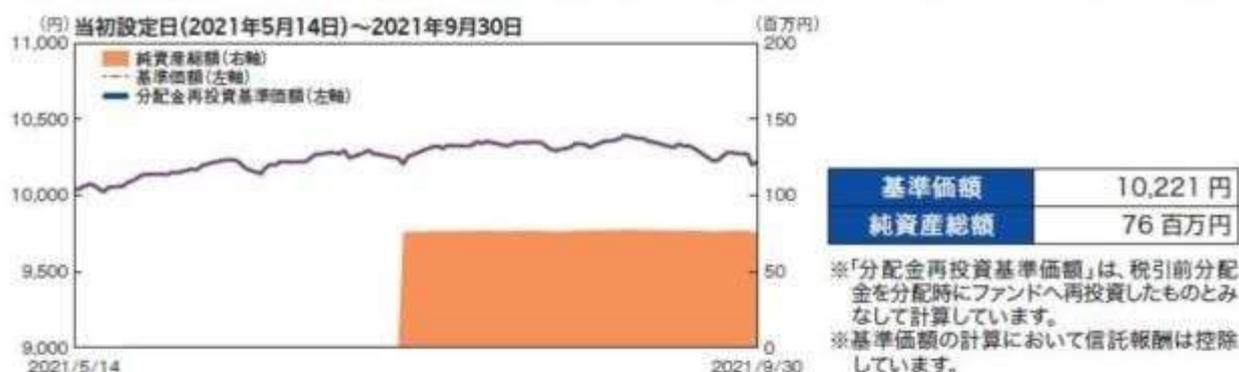
※2021年は設定日(2021年5月14日)から9月末までの騰落率を表しています。

最新の運用状況については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

## グローバルAZファンド Bコース

2021年9月30日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

### 基準価額・純資産の推移



### 分配の推移 (10,000口当たり、税引前)

決算期	第1期 2021年9月	設定来累計
分配金	0円	0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。分配金が支払われない場合もあります。

### 主要な資産の状況

#### 楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	99.4%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを30.6%組入れています。

#### 楽天・世界債券コア (為替ヘッジ付) マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	98.4%
NEXT FUNDS 外国債券・FTSE世界国債インデックス (除く日本・為替ヘッジあり) 連動型上場投信	投資信託証券	日本	円	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを69.4%組入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

### 年間収益率の推移 (暦年ベース)

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

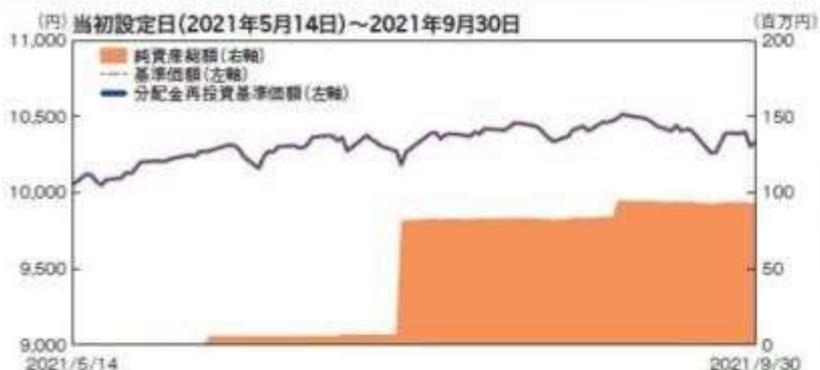
※2021年は設定日(2021年5月14日)から9月末までの騰落率を表しています。

最新の運用状況については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

## グローバルAZファンド Cコース

2021年9月30日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

### 基準価額・純資産の推移



### 分配の推移 (10,000口当たり、税引前)

決算期	第1期 2021年9月	設定来累計
分配金	0円	0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。分配金が支払われない場合もあります。

### 主要な資産の状況

#### 楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	99.4%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを50.0%組み入れています。

#### 楽天・世界債券コア (為替ヘッジ付) マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	98.4%
NEXT FUNDS 外国債券・FTSE世界国債インデックス(除く日本・為替ヘッジあり連動型上場投信)	投資信託証券	日本	円	0.0%

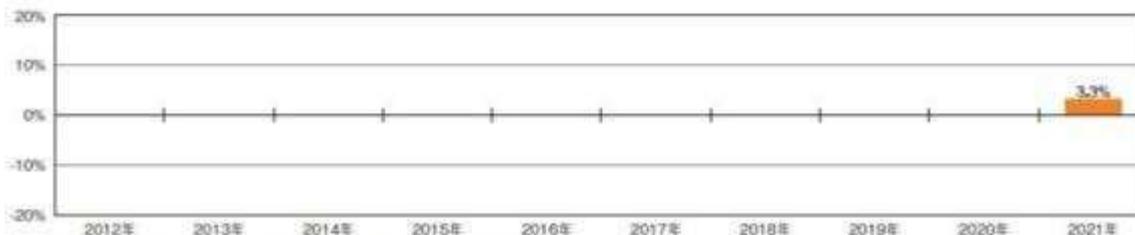
※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを49.9%組み入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

### 年間収益率の推移 (暦年ベース)

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

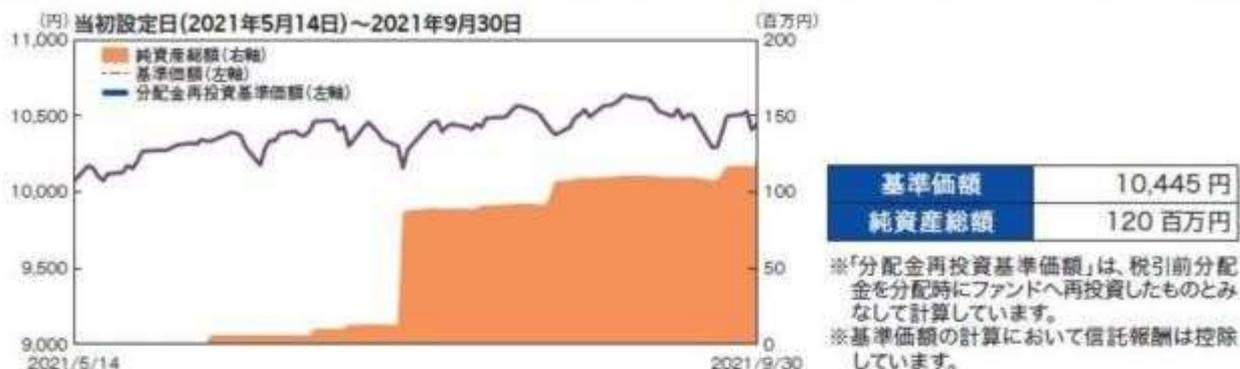
※2021年は設定日(2021年5月14日)から9月末までの騰落率を表しています。

最新の運用状況については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

## グローバルAZファンド Dコース

2021年9月30日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

## 基準価額・純資産の推移



## 分配の推移（10,000口当たり、税引前）

決算期	第1期 2021年9月	設定来累計
分配金	0円	0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。分配金が支払われない場合もあります。

## 主要な資産の状況

## 楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	99.4%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを70.1%組入れています。

## 楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	98.4%
NEXT FUNDS 外国債券・FTSE世界国債インデックス（除く日本・為替ヘッジあり）運動型上場投信	投資信託証券	日本	円	0.0%

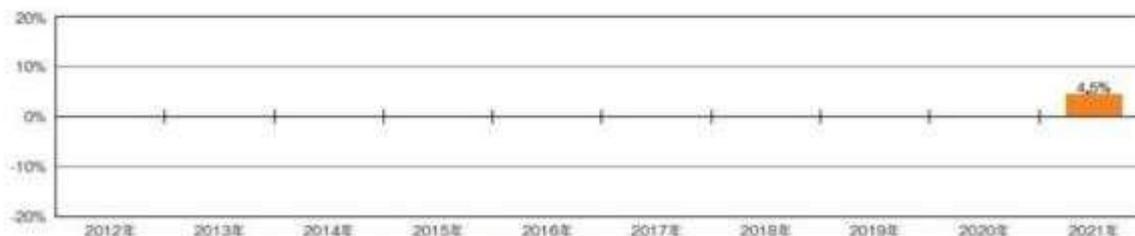
※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを29.9%組入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

## 年間収益率の推移（暦年ベース）

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

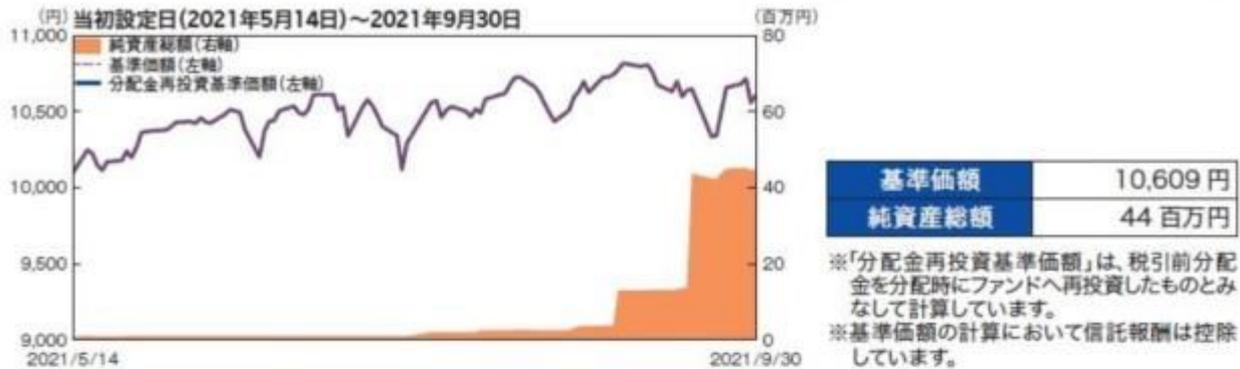
※2021年は設定日(2021年5月14日)から9月末までの騰落率を表しています。

最新の運用状況については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

## グローバルAZファンド Eコース

2021年9月30日現在 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

### 基準価額・純資産の推移



### 分配の推移（10,000口当たり、税引前）

決算期	第1期 2021年9月	設定未累計
分配金	0円	0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。分配金が支払われない場合もあります。

### 主要な資産の状況

#### 楽天グローバル株式マザーファンド

銘柄名	種類	国/地域	通貨	投資比率
ディメンショナル・ファンズ・ビーエルシー グローバル・コア・エクイティ・ファンド	投資信託証券	アイルランド	円	99.4%
iシェアーズ MSCI ワールド ETF	投資信託証券	アメリカ	米ドル	0.0%

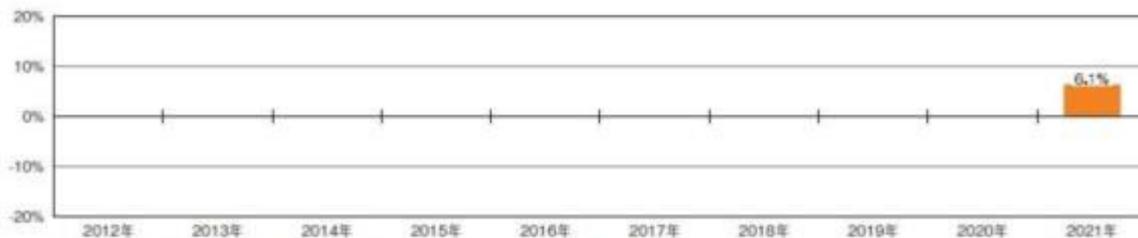
※当ファンドの純資産総額に対し、上記マザーファンドを99.9%組入れています。

※国/地域は、各投資信託証券の発行地です。

※投資比率は、各マザーファンドの純資産総額に対する各資産の評価額の比率です。

### 年間収益率の推移（暦年ベース）

当ファンドには、ベンチマークはありません。



※ファンドの「年間収益率」は、「税引前分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※2021年は設定日(2021年5月14日)から9月末までの騰落率を表しています。

最新の運用状況については、委託会社のホームページでご確認いただけます。

## 第3【ファンドの経理状況】

## グローバルAZファンド Aコース / Bコース / Cコース / Dコース / Eコース

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則(昭和38年大蔵省令第59号)」並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則(平成12年総理府令第133号)」に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(2021年5月14日から2021年9月21日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

## 1【財務諸表】

## 【グローバルAZファンド Aコース】

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

		第1期 2021年 9月21日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン		163,996
親投資信託受益証券		76,297,468
流動資産合計		76,461,464
資産合計		76,461,464
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払受託者報酬		3,692
未払委託者報酬		103,068
流動負債合計		106,760
負債合計		106,760
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本		74,888,187
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )		1,466,517
元本等合計		76,354,704
純資産合計		76,354,704
負債純資産合計		76,461,464

## (2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

		第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
<b>営業収益</b>		
有価証券売買等損益		39,532
営業収益合計		39,532
<b>営業費用</b>		
支払利息		2
受託者報酬		3,692
委託者報酬		103,068

第1期	
自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日	
営業費用合計	106,762
営業利益又は営業損失（ ）	146,294
経常利益又は経常損失（ ）	146,294
当期純利益又は当期純損失（ ）	146,294
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	-
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,612,811
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,612,811
分配金	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,466,517

### （ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	ファンドの計算期間 ファンドの計算期間は、期首が設定日および当期末が休日であることから、2021年5月14日から2021年 9月21日までとなっております。

（重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

（貸借対照表に関する注記）

項目	第1期	
	2021年 9月21日現在	
1. 計算期間末日における受益権の総数		74,888,187口
2. 計算期間末日における1口当たり純資産額	1口当たり純資産額	1.0196円
	(10,000口当たり純資産額)	(10,196円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

## 第1期

自 2021年 5月14日

至 2021年 9月21日

## 分配金の計算過程

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	- 円
収益調整金額	C	1,466,898円
分配準備積立金額	D	- 円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	1,466,898円
当ファンドの期末残存口数	F	74,888,187口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	195.87円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	$I=F \times H/10,000$	- 円

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

	第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託として、信託約款に規定する「運用の基本方針」に基づき金融商品を保有しております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、売買目的有価証券のほか、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務を保有しております。当該金融商品は価格変動リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類ごとに行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期
	2021年 9月21日現在
1.貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

## 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

第1期（2021年9月21日現在）

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則(令和2年3月6日改正内閣府令第9号)第2条第6項に準じて、記載を省略しております。

## （有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期
	2021年 9月21日現在
	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	39,646
合計	39,646

## （デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

第1期
自 2021年 5月14日
至 2021年 9月21日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

項目	第1期
	自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	73,888,187円
期中一部解約元本額	- 円

（４）【附属明細表】

第 1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	3,832,365	7,588,465	
	楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド	67,302,384	68,709,003	
合計		71,134,749	76,297,468	

券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【グローバルAZファンド Bコース】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

第1期  
2021年 9月21日現在

資産の部

第1期  
2021年 9月21日現在

流動資産	
コール・ローン	181,995
親投資信託受益証券	76,324,506
流動資産合計	76,506,501
資産合計	76,506,501
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	3,707
未払委託者報酬	118,354
流動負債合計	122,061
負債合計	122,061
純資産の部	
元本等	
元本	74,691,173
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,693,267
元本等合計	76,384,440
純資産合計	76,384,440
負債純資産合計	76,506,501

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

		第1期
		自 2021年 5月14日
		至 2021年 9月21日
営業収益		
有価証券売買等損益	6,506	
営業収益合計	6,506	
営業費用		
支払利息	4	
受託者報酬	3,707	
委託者報酬	118,354	
営業費用合計	122,065	
営業利益又は営業損失（ ）	115,559	
経常利益又は経常損失（ ）	115,559	
当期純利益又は当期純損失（ ）	115,559	
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	-	
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-	
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,808,826	
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,808,826	
分配金	-	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,693,267	

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
--------------------	--

2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	ファンドの計算期間 ファンドの計算期間は、期首が設定日および当期末が休日であることから、2021年5月14日から2021年9月21日までとなっております。

（重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

（貸借対照表に関する注記）

項目	第1期 2021年9月21日現在	
	1. 計算期間末日における受益権の総数	
2. 計算期間末日における1口当たり純資産額	1口当たり純資産額	1.0227円
	(10,000口当たり純資産額)	(10,227円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日		
分配金の計算過程		
項目		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	- 円
収益調整金額	C	1,693,583円
分配準備積立金額	D	- 円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	1,693,583円
当ファンドの期末残存口数	F	74,691,173口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	226.74円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	I=F × H/10,000	- 円

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託として、信託約款に規定する「運用の基本方針」に基づき金融商品を保有しております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、売買目的有価証券のほか、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務を保有しております。当該金融商品は価格変動リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類ごとに行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

#### 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期 2021年 9月21日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

#### 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

第1期（2021年9月21日現在）

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則(令和2年3月6日改正内閣府令第9号)第2条第6項に準じて、記載を省略しております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期 2021年 9月21日現在
	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	3,245
合計	3,245

（デリバティブ取引等に関する注記）  
取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

（その他の注記）  
元本の移動

項目	第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	73,691,173円
期中一部解約元本額	- 円

（４）【附属明細表】

第１ 有価証券明細表  
(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	11,475,981	22,723,589	
	楽天・世界債券コア(為替ヘッジ付)マザーファンド	52,503,592	53,600,917	
合計		63,979,573	76,324,506	

券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

### 【グローバルAZファンド Cコース】

#### (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

		第1期 2021年 9月21日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン		224,989
親投資信託受益証券		92,692,800
流動資産合計		92,917,789
資産合計		92,917,789
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払受託者報酬		4,318
未払委託者報酬		155,193
流動負債合計		159,511
負債合計		159,511
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本		90,393,165
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )		2,365,113
元本等合計		92,758,278
純資産合計		92,758,278
負債純資産合計		92,917,789

#### (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

		第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
<b>営業収益</b>		
有価証券売買等損益		132,200
営業収益合計		132,200
<b>営業費用</b>		

	第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
支払利息	8
受託者報酬	4,318
委託者報酬	155,193
営業費用合計	159,519
営業利益又は営業損失（ ）	291,719
経常利益又は経常損失（ ）	291,719
当期純利益又は当期純損失（ ）	291,719
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	-
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,656,832
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,656,832
分配金	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2,365,113

### （ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	ファンドの計算期間 ファンドの計算期間は、期首が設定日および当期末が休日であることから、2021年5月14日から2021年 9月21日までとなっております。

（重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

（貸借対照表に関する注記）

項目	第1期 2021年 9月21日現在	
	1. 計算期間末日における受益権の総数	
2. 計算期間末日における1口当たり純資産額	1口当たり純資産額	1.0262円
	(10,000口当たり純資産額)	(10,262円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日		
分配金の計算過程		
項目		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	- 円
収益調整金額	C	2,365,384円
分配準備積立金額	D	- 円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	2,365,384円
当ファンドの期末残存口数	F	90,393,165口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	261.67円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	I=F × H/10,000	- 円

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日	
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託として、信託約款に規定する「運用の基本方針」に基づき金融商品を保有しております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、売買目的有価証券のほか、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務を保有しております。当該金融商品は価格変動リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類ごとに行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期 2021年 9月21日現在
	1. 貸借対照表計上額と時価との差額
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

## 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

第1期（2021年9月21日現在）

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則(令和2年3月6日改正内閣府令第9号)第2条第6項に準じて、記載を省略しております。

## （有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期 2021年 9月21日現在
	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	136,734
合計	136,734

## （デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

項目	第1期
	自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	89,393,165円
期中一部解約元本額	- 円

（４）【附属明細表】

第 1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	22,992,169	45,526,793	
	楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド	46,200,419	47,166,007	
合計		69,192,588	92,692,800	

券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【グローバルAZファンド Dコース】

（１）【貸借対照表】

（単位：円）

第1期  
2021年 9月21日現在

資産の部

第1期  
2021年 9月21日現在

流動資産	
コール・ローン	271,984
親投資信託受益証券	107,947,609
流動資産合計	108,219,593
資産合計	108,219,593
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	5,040
未払委託者報酬	201,222
流動負債合計	206,262
負債合計	206,262
純資産の部	
元本等	
元本	104,943,288
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	3,070,043
元本等合計	108,013,331
純資産合計	108,013,331
負債純資産合計	108,219,593

( 2 ) 【損益及び剰余金計算書】

( 単位 : 円 )

第1期	
自 2021年 5月14日	
至 2021年 9月21日	
営業収益	
有価証券売買等損益	220,391
営業収益合計	220,391
営業費用	
支払利息	10
受託者報酬	5,040
委託者報酬	201,222
営業費用合計	206,272
営業利益又は営業損失（ ）	426,663
経常利益又は経常損失（ ）	426,663
当期純利益又は当期純損失（ ）	426,663
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	-
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,496,706
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	3,496,706
分配金	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	3,070,043

( 3 ) 【注記表】

( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
--------------------	--

2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	ファンドの計算期間 ファンドの計算期間は、期首が設定日および当期末が休日であることから、2021年5月14日から2021年9月21日までとなっております。

（重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

（貸借対照表に関する注記）

項目	第1期 2021年9月21日現在	
1. 計算期間末日における受益権の総数		104,943,288口
2. 計算期間末日における1口当たり純資産額	1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.0293円 (10,293円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日		
分配金の計算過程		
項目		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	- 円
収益調整金額	C	3,070,278円
分配準備積立金額	D	- 円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	3,070,278円
当ファンドの期末残存口数	F	104,943,288口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	292.56円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	I=F × H/10,000	- 円

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託として、信託約款に規定する「運用の基本方針」に基づき金融商品を保有しております。
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、売買目的有価証券のほか、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務を保有しております。当該金融商品は価格変動リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3.金融商品に係るリスクの管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類ごとに行っております。
4.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

#### 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期 2021年 9月21日現在
1.貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

#### 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

第1期（2021年9月21日現在）

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則(令和2年3月6日改正内閣府令第9号)第2条第6項に準じて、記載を省略しております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期 2021年 9月21日現在
	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	222,628
合計	222,628

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

項目	第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
	投資信託財産に係る元本の状況
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	103,943,288円
期中一部解約元本額	- 円

（４）【附属明細表】

第１ 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	37,810,292	74,868,159	
	楽天・世界債券コア(為替ヘッジ付)マザーファンド	32,402,244	33,079,450	
合計		70,212,536	107,947,609	

券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

### 【グローバルAZファンド Eコース】

#### (1) 【貸借対照表】

(単位:円)

第1期 2021年 9月21日現在	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
コール・ローン	62,997
親投資信託受益証券	42,432,582
流動資産合計	42,495,579
資産合計	42,495,579
<b>負債の部</b>	
流動負債	
未払受託者報酬	426
未払委託者報酬	18,284
流動負債合計	18,710
負債合計	18,710
<b>純資産の部</b>	
元本等	
元本	41,091,278
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金( )	1,385,591
元本等合計	42,476,869
純資産合計	42,476,869
負債純資産合計	42,495,579

#### (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日	
<b>営業収益</b>	
有価証券売買等損益	1,208,418
営業収益合計	1,208,418
営業費用	

第1期	
自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日	
受託者報酬	426
委託者報酬	18,284
営業費用合計	18,710
営業利益又は営業損失（ ）	1,227,128
経常利益又は経常損失（ ）	1,227,128
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,227,128
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	-
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	-
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,612,719
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,612,719
分配金	-
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	1,385,591

## ( 3 ) 【注記表】

( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	ファンドの計算期間 ファンドの計算期間は、期首が設定日および当期末が休日であることから、2021年5月14日から2021年 9月21日までとなっております。

( 重要な会計上の見積りに関する注記 )

該当事項はありません。

( 貸借対照表に関する注記 )

項目	第1期	
	2021年 9月21日現在	
1. 計算期間末日における受益権の総数		41,091,278口
2. 計算期間末日における1口当たり純資産額	1口当たり純資産額	1.0337円
	(10,000口当たり純資産額)	(10,337円)

( 損益及び剰余金計算書に関する注記 )

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日		
分配金の計算過程		
項目		
費用控除後の配当等収益額	A	- 円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	- 円
収益調整金額	C	1,385,620円
分配準備積立金額	D	- 円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	1,385,620円
当ファンドの期末残存口数	F	41,091,278口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	337.20円
10,000口当たり分配金額	H	- 円
収益分配金金額	I=F × H/10,000	- 円

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

第1期 自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日	
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託として、信託約款に規定する「運用の基本方針」に基づき金融商品を保有しております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、売買目的有価証券のほか、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務を保有しております。当該金融商品は価格変動リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類ごとに行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期
	2021年 9月21日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

## 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

第1期（2021年9月21日現在）

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則(令和2年3月6日改正内閣府令第9号)第2条第6項に準じて、記載を省略しております。

## （有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期
	2021年 9月21日現在
	当計算期間の損益に含まれた評価差額（円）
親投資信託受益証券	1,208,708
合計	1,208,708

## （デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

第1期
自 2021年 5月14日
至 2021年 9月21日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

## （その他の注記）

## 元本の移動

項目	第1期
	自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	40,091,278円
期中一部解約元本額	- 円

## （４）【附属明細表】

## 第 1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	楽天グローバル株式マザーファンド	21,429,515	42,432,582	
合計		21,429,515	42,432,582	

券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

## 第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## （参考）

当ファンドは親投資信託受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上されている親投資信託受益証券の状況は次の通りです。

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外です。

楽天グローバル株式マザーファンド

貸借対照表

(単位：円)

2021年 9月21日現在

資産の部	
流動資産	
預金	937
コール・ローン	44,872,628
投資信託受益証券	3,203,130,497
流動資産合計	3,248,004,062
資産合計	3,248,004,062
負債の部	
流動負債	
未払金	30,000,000
未払解約金	128,000
未払利息	122
流動負債合計	30,128,122
負債合計	30,128,122
純資産の部	
元本等	
元本	1,625,130,470
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	1,592,745,470
元本等合計	3,217,875,940
純資産合計	3,217,875,940
負債純資産合計	3,248,004,062

## 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の市場価格又は基準価額に基づいて評価しております。
2.外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客直物電信売買相場の仲値によって計算しております。
3.収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。  為替差損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
4.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

（重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

（貸借対照表に関する注記）

項目	2021年 9月21日現在	
1. 計算期間末日における受益権の総数		1,625,130,470口
2. 計算期間末日における1口当たり純資産額	1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.9801円 (19,801円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託として、信託約款に規定する「運用の基本方針」に基づき金融商品を保有しております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、売買目的有価証券及びデリバティブのほか、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務を保有しております。当該金融商品は価格変動リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類ごとに行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	2021年 9月21日現在
1. 貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。

項目	2021年 9月21日現在
	(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。
	(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

## 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

(2021年9月21日現在)

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則(令和2年3月6日改正内閣府令第9号)第2条第6項に準じて、記載を省略しております。

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	2021年 9月21日現在	
	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)	
投資信託受益証券		104,095,931
合計		104,095,931

## (デリバティブ取引等に関する注記)

## 取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

## (その他の注記)

## 元本の移動

項目	自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2021年 5月14日
期首元本額	1,201,805,570円
期中追加設定元本額	450,585,340円
期中一部解約元本額	27,260,440円
元本の内訳	
楽天グローバル株式ファンド	312,063,320円
楽天ターゲットイヤー2030	241,540,603円
楽天ターゲットイヤー2040	595,938,822円
楽天ターゲットイヤー2050	378,047,403円
グローバルAZファンド Aコース	3,832,365円
グローバルAZファンド Bコース	11,475,981円
グローバルAZファンド Cコース	22,992,169円
グローバルAZファンド Dコース	37,810,292円
グローバルAZファンド Eコース	21,429,515円

#### 附属明細表

##### 第1 有価証券明細表

###### (1) 株式

該当事項はありません。

###### (2) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	ディメンショナル・ファンズ・ ピーエルシー グローバル・コア・ エクイティ・ファンド	1,614,474.031	3,203,116,477	
	日本円 小計		1,614,474.031	3,203,116,477	
	アメリカ・ドル	iShares MSCI World ETF	1	127.96	
	アメリカ・ドル 小計		1	127.96 (14,020)	
合計			1,614,475.031	3,203,130,497 (14,020)	

券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

#### (注)

- 各種通貨毎の小計の欄における（ ）内の金額は、邦貨換算額であります。
- 合計欄における（ ）内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。
- 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資信託 受益証券 時価比率	合計金額に 対する比率
アメリカ・ドル	投資信託受益証券 1銘柄	100.0%	100.0%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド

### 貸借対照表

（単位：円）

2021年 9月21日現在

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	820,520
投資信託受益証券	201,738,185
未収配当金	58
流動資産合計	202,558,763
資産合計	202,558,763
負債の部	
流動負債	
未払利息	2
流動負債合計	2
負債合計	2
純資産の部	
元本等	
元本	198,408,639
剰余金	
剰余金又は欠損金（ ）	4,150,122
元本等合計	202,558,761
純資産合計	202,558,761
負債純資産合計	202,558,763

### 注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の市場価格又は基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金

	<p>投資信託受益証券の収益分配金を、原則として収益分配金落ちの売買が行われる日において、当該金額を計上しております。</p> <p>有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。</p>
--	---

（重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

（貸借対照表に関する注記）

項目	2021年 9月21日現在	
1. 計算期間末日における受益権の総数		198,408,639口
2. 計算期間末日における1口当たり純資産額	1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.0209円 (10,209円)

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託として、信託約款に規定する「運用の基本方針」に基づき金融商品を保有しております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、売買目的有価証券のほか、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務を保有しております。当該金融商品は価格変動リスク、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク、流動性リスク等に晒されております。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類ごとに行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

項目	2021年 9月21日現在
1.貸借対照表計上額と時価との差額	貸借対照表計上額は原則として時価で計上されているため、差額はありません。
2.時価の算定方法	<p>(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。</p> <p>(2) デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3) 上記以外の金銭債権及び金銭債務 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

## 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

(2021年9月21日現在)

「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則(令和2年3月6日改正内閣府令第9号)第2条第6項に準じて、記載を省略しております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2021年 9月21日現在	
	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)	
投資信託受益証券		131,910
合計		131,910

(デリバティブ取引等に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。

（その他の注記）

元本の移動

項目	自 2021年 5月14日 至 2021年 9月21日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2021年 5月14日
期首元本額	2,376,000円
期中追加設定元本額	196,155,746円
期中一部解約元本額	123,107円
元本の内訳	
グローバルA Zファンド Aコース	67,302,384円
グローバルA Zファンド Bコース	52,503,592円
グローバルA Zファンド Cコース	46,200,419円
グローバルA Zファンド Dコース	32,402,244円

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
投資信託受益証券	NEXT FUNDS 外国債券・FTSE世界国債インデックス（除く日本・為替ヘッジあり）連動型上場投信	10	10,270	
	ディメンショナル・ファンズ・ピーエルシー グローバル・コア・フィクスト・インカム・ ファンド	189,699.096	201,727,915	
合計		189,709.096	201,738,185	

券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は2021年 9月30日現在です。

### 【グローバルAZファンド Aコース】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	75,750,424円
負債総額	19,105円
純資産総額（ - ）	75,731,319円
発行済口数	74,889,177口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0112円

### 【グローバルAZファンド Bコース】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	76,360,328円
負債総額	21,287円
純資産総額（ - ）	76,339,041円
発行済口数	74,691,173口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0221円

### 【グローバルAZファンド Cコース】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	93,417,860円
負債総額	28,514円
純資産総額（ - ）	93,389,346円
発行済口数	90,393,165口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0331円

### 【グローバルAZファンド Dコース】

#### 【純資産額計算書】

資産総額	120,556,239円
負債総額	37,862円
純資産総額（ - ）	120,518,377円

発行済口数	115,388,937口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0445円

## 【グローバルAZファンド Eコース】

## 【純資産額計算書】

資産総額	44,893,116円
負債総額	15,875円
純資産総額（ - ）	44,877,241円
発行済口数	42,301,922口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0609円

（参考）

## 楽天グローバル株式マザーファンド

## 純資産額計算書

資産総額	3,354,908,420円
負債総額	21,621,099円
純資産総額（ - ）	3,333,287,321円
発行済口数	1,639,681,319口
1口当たり純資産額（ / ）	2.0329円

## 楽天・世界債券コア（為替ヘッジ付）マザーファンド

## 純資産額計算書

資産総額	203,525,849円
負債総額	9円
純資産総額（ - ）	203,525,840円
発行済口数	201,737,830口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0089円

## 第三部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

<更新後>

##### (1) 資本金の額（2021年9月末現在）

資本金の額	: 150百万円
発行可能株式総数	: 30,000株
発行済株式総数	: 13,000株
過去5年間における主な資本金の増減	: 該当事項はありません。

##### (2) 委託会社の機構（2021年9月末現在）

###### 取締役会

取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとし、補欠のために選任された取締役の任期は、前任者の残任期間とします。

取締役会は、その決議をもって、取締役中より取締役会長、取締役社長、取締役副社長各1名、専務取締役および常務取締役若干名を選任することができます。またその決議をもって、代表取締役を選任します。

取締役会は、取締役会長または取締役社長が招集し、招集者がその議長となります。取締役会長および取締役社長に事故があるときは、あらかじめ取締役会の決議により定められた順序により、他の取締役がこれに代わります。

取締役会の招集通知は、会日から原則として1週間前までにこれを発します。ただし、緊急のときなどは、この期間を短縮することができます。また各取締役および監査役全員の同意があるときは、これを省略することができます。

取締役会は、会社の業務執行を決定し、取締役の職務の執行について監督します。その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数の賛成をもって行います。

###### 監査役

経営のチェック機能として、業務監査および会計監査による違法または著しく不当な職務執行行為の監査を行います。

##### (3) 投資運用の意思決定プロセス（2021年9月末現在）

投資政策委員会において、国内外の経済見通し、市況見通しを検討し、これを基に資産配分の基本方針を決定します。

運用部門は、投資政策委員会の決定に基づき、具体的な運用方針を決定します。

運用部門のファンドマネジャーは、上記運用方針および運用にかかる諸規則等に従って、ポートフォリオを構築・管理します。

コンプライアンス部は、投資信託財産の運用にかかるコンプライアンス状況のモニタリングを行い、これを運用部門にフィードバックします。

#### 2【事業の内容及び営業の概況】

<更新後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務の一部および投資助言・代理業務を行っています。

2021年9月末現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。

ファンドの種類	本数	純資産総額（百万円）
追加型株式投資信託	67	718,471
合計	67	718,471

### 3【委託会社等の経理状況】

#### <更新後>

- 委託会社である楽天投信投資顧問株式会社（以下「当社」といいます。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」といいます。）、並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。  
当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年8月30日大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という）、並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
- 財務諸表及び中間財務諸表に記載している金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第15期事業年度（2020年1月1日から2020年12月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けており、中間会計期間（2021年1月1日から2021年6月30日まで）の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

#### （1）【貸借対照表】

	（単位：千円）	
	前事業年度 （2019年12月31日現在）	当事業年度 （2020年12月31日現在）
資産の部		
流動資産		
現金・預金	677,158	998,579
金銭の信託	1,400,000	800,000
前払費用	6,720	14,635
未収入金	2,622	1,471
未収委託者報酬	151,985	293,497
未収運用受託報酬	-	8,884
立替金	16,949	37,697
その他	7,331	16,553
流動資産計	2,262,767	2,171,319
固定資産		
有形固定資産	1	1
建物（純額）	28,585	35,181
器具備品（純額）	14,479	-
器具備品（純額）	14,105	35,181
無形固定資産	79,461	77,137
ソフトウェア	79,461	77,137
投資その他の資産	30,115	464,867
投資有価証券	2,017	432,851
長期前払費用	229	623
繰延税金資産	27,868	31,392
固定資産計	138,162	577,186
資産合計	2,400,929	2,748,506

負債の部		
流動負債		
預り金	5,163	5,959
未払金	-	38,423
未払費用	120,042	206,729
未払消費税等	1,897	29,627
未払法人税等	10,750	17,764
賞与引当金	13,264	17,559
役員賞与引当金	3,000	3,000
流動負債計	154,119	319,063
固定負債		
退職給付引当金	18,016	41,069
固定負債計	18,016	41,069
負債合計	172,135	360,132
純資産の部		
株主資本		
資本金	150,000	150,000
資本剰余金		
資本準備金	400,000	400,000
その他資本剰余金	229,716	229,716
資本剰余金合計	629,716	629,716
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,449,135	1,584,464
利益剰余金合計	1,449,135	1,584,464
株主資本合計	2,228,851	2,364,180
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57	24,193
評価・換算差額合計	57	24,193
純資産合計	2,228,794	2,388,373
負債・純資産合計	2,400,929	2,748,506

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
営業収益		
委託者報酬	1,156,758	1,285,484
運用受託報酬	-	47,067
営業収益計	1,156,758	1,332,552
営業費用		
支払手数料	408,328	401,314
委託費	28,657	105,827
広告宣伝費	4,654	5,837
通信費	89,735	67,273
協会費	2,030	2,030
諸会費	82	82
営業費用計	533,488	582,385

一般管理費	1・2	544,199	1・2	598,185
営業利益		79,069		152,000
営業外収益				
受取利息		7		8
有価証券利息		403		436
投資有価証券売却益		1,287		44,379
為替差益		0		0
雑収入		-		2,542
営業外収益計		1,699		47,366
経常利益		80,768		199,367
特別利益				
資産除去債務取崩益		2,517		-
特別利益計		2,517		-
特別損失				
固定資産除却損		-		423
事務所移転費		-		723
特別損失計		-		1,146
税引前当期純利益		83,285		198,220
法人税、住民税及び事業税		36,010		77,119
法人税等調整額		16,715		14,226
法人税等合計		19,294		62,892
当期純利益		63,990		135,328

## ( 3 ) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	150,000	400,000	229,716	629,716
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	150,000	400,000	229,716	629,716

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金 合計				
	繰越利益剰余金					
当期首残高	1,385,144	1,385,144	2,164,860	1,593	1,593	2,163,266
当期変動額						
剰余金の配当						
当期純利益	63,990	63,990	63,990			63,990
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				1,536	1,536	1,536

当期変動額合計	63,990	63,990	63,990	1,536	1,536	65,526
当期末残高	1,449,135	1,449,135	2,228,851	57	57	2,228,794

当事業年度（自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	150,000	400,000	229,716	629,716
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	150,000	400,000	229,716	629,716

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金 合計				
	繰越利益剰余金					
当期首残高	1,449,135	1,449,135	2,228,851	57	57	2,228,794
当期変動額						
剰余金の配当						
当期純利益	135,328	135,328	135,328			135,328
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				24,250	24,250	24,250
当期変動額合計	135,328	135,328	135,328	24,250	24,250	159,579
当期末残高	1,584,464	1,584,464	2,364,180	24,193	24,193	2,388,373

[注記事項]

（重要な会計方針）

1．資産の評価基準及び評価方法

（1）有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

当事業年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）を採用しております。

（2）金銭の信託

時価法によっております。

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下の通りであります。

建物 10年

器具備品 5～20年

また、取得価額が100千円以上200千円未満の減価償却資産につきましては、3年均等償却によっております。

## (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

## (3) 長期前払費用

定額法によっております。

## 3. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上することとしております。

## (2) 賞与引当金

従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

## (3) 役員賞与引当金

役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する将来の支給見込額のうち、当事業年度末において負担すべき額を計上しております。

## (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

## 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

## 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

## 4. その他財務諸表作成の為の基本となる重要な事項

## (1) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当事業年度の費用として処理しております。

## (2) 連結納税制度の適用

当事業年度から連結納税制度を適用しております。

なお、当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

## (貸借対照表関係)

## 1. 有形固定資産より控除した減価償却累計額

	前事業年度 (2019年12月31日)	当事業年度 (2020年12月31日)
有形固定資産より控除した減価償却累計額	27,276千円	11,630千円

## （損益計算書関係）

## 1．役員報酬の範囲

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
取締役 年額	200,000千円	200,000千円
監査役 年額	30,000千円	30,000千円

## 2．一般管理費の主なもののうち主要な費目及び金額は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
人件費	289,853千円	277,335千円
減価償却費	17,296千円	34,764千円
賞与引当金繰入額	13,264千円	17,559千円
役員賞与引当金繰入額	3,000千円	3,000千円
退職給付費用	14,649千円	18,963千円
経営指導料	36,410千円	60,299千円

## （株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

## 1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	13,000株	-	-	13,000株

## 2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4．剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度（自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）

## 1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	13,000株	-	-	13,000株

## 2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4．剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

## （リース取引関係）

&lt;借主側&gt;

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度	当事業年度
	2019年12月31日	2020年12月31日
1年内	28,200千円	28,200千円
1年超	82,900千円	54,700千円
合計	111,100千円	82,900千円

## （金融商品関係）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っております。

当社では保有する金融資産・負債から生ずる様々なリスクを横断的かつ効率的に管理し、財務の健全性の維持を図っております。

なお、余資運用に関しては、預金等安全性の高い金融資産で運用しております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

現金・預金は、国内通貨による預金等であり、短期間で決済されるため、為替変動リスクや価格変動リスクは殆どないと認識しております。金銭の信託は、主に債権等を裏付けとした証券化商品を運用対象としておりますが、保有している証券化商品の外部格付機関による格付評価が高いため、価格変動リスクは殆どないと認識しております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクは殆ど無いと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、顧客ごとに決済期日及び残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

投資有価証券は当社運用投資信託であり、当初自己設定および商品性維持を目的に保有しております。当該投資信託は為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、投資金額はその目的に応じた額にとどめられており、定期的に時価の状況を把握し、その内容を経営に報告いたしております。

未払費用につきましては、そのほとんどが一年以内で決済されます。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2019年12月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
<b>資産</b>			
(1) 現金・預金	677,158	677,158	-
(2) 金銭の信託	1,400,000	1,400,000	-
(3) 未収委託者報酬	151,985	151,985	-
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	2,017	2,017	-
資産計	2,231,161	2,231,161	-
<b>負債</b>			
(1) 未払費用	120,042	120,042	-
(2) 未払法人税等	10,750	10,750	-
負債計	130,793	130,793	-

当事業年度(2020年12月31日)

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
<b>資産</b>			
(1) 現金・預金	998,579	998,579	-
(2) 金銭の信託	800,000	800,000	-
(3) 未収委託者報酬	293,497	293,497	-
(4) 未収運用受託報酬	8,884	8,884	-
(5) 投資有価証券 其他有価証券	432,851	432,851	-
<b>資産計</b>	<b>2,533,813</b>	<b>2,533,813</b>	<b>-</b>
<b>負債</b>			
(1) 未払金	38,423	38,423	-
(2) 未払費用	206,729	206,729	-
(3) 未払消費税等	29,627	29,627	-
(4) 未払法人税等	17,764	17,764	-
<b>負債計</b>	<b>292,543</b>	<b>292,543</b>	<b>-</b>

## (注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

## 資産

- (1)現金・預金 (2)金銭の信託 (3)未収委託者報酬 (4)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5)投資有価証券

投資信託は公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

## 負債

- (1)未払金 (2)未払費用 (3)未払消費税等 (4)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

## 2. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(2019年12月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内
現金・預金	677,158	-
金銭の信託	1,400,000	-
未収委託者報酬	151,985	-
投資有価証券		
其他有価証券のうち満期があるもの	-	-
<b>合 計</b>	<b>2,229,144</b>	<b>-</b>

当事業年度(2020年12月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内
現金・預金	998,579	-
金銭の信託	800,000	-
未収委託者報酬	293,497	-
未収運用受託報酬	8,884	-
投資有価証券		
其他有価証券のうち満期があるもの	-	-

合 計	2,100,962	-
-----	-----------	---

## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前事業年度(2019年12月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	1,002	1,000	2
小 計	1,002	1,000	2
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	1,014	1,100	85
小 計	1,014	1,100	85
合 計	2,017	2,100	82

当事業年度(2020年12月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	383,231	311,000	72,231
小 計	383,231	311,000	72,231
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	49,620	86,981	37,360
小 計	49,620	86,981	37,360
合 計	432,851	397,981	34,870

## 2. 売却したその他有価証券

前事業年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	57,922	1,652	364
合計	57,922	1,652	364

当事業年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	268,298	64,367	19,987
合計	268,298	64,367	19,987

## (デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概略

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
退職給付債務の期首残高	3,461千円	18,738千円
勤務費用	14,609千円	18,728千円
利息費用	20千円	87千円
数理計算上の差異の発生額	646千円	5,318千円
退職給付の支払額	-	-
過去勤務費用の発生額	-	-
転籍にともなう増減額	-	4,089千円
退職給付債務の期末残高	18,738千円	46,961千円

## (2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
非積立制度の退職給付債務	18,738千円	46,961千円
未積立退職給付債務	18,738千円	46,961千円
未認識数理計算上の差異	722千円	5,892千円
未認識過去勤務費用	-	-
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	18,016千円	41,069千円
退職給付引当金	18,016千円	41,069千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	18,016千円	41,069千円

## (3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
勤務費用	14,609千円	18,728千円
利息費用	20千円	87千円
期待運用収益	-	-
数理計算上の差異の費用処理額	19千円	148千円
過去勤務費用の費用処理額	-	-

確定給付制度に係る退職給付費用	14,649千円	18,963千円
-----------------	----------	----------

## (4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
割引率	0.4%	0.5%
長期期待運用収益率	-	-
予想昇給率	2.4%	2.4%

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年12月31日)	当事業年度 (2020年12月31日)
繰延税金資産		
未払費用	7,418千円	11,077千円
未払事業所税	259千円	210千円
未払事業税	1,245千円	3,791千円
賞与引当金	4,061千円	5,376千円
退職給付引当金	5,516千円	12,575千円
減価償却超過額	1,394千円	378千円
繰延資産	92千円	30千円
その他有価証券評価差額金	25千円	-
その他	8,310千円	9,085千円
繰延税金資産小計	28,324千円	42,526千円
評価性引当金	456千円	456千円
繰延税金資産合計	27,868千円	42,069千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	-	10,677千円
繰延税金負債合計	-	10,677千円
繰延税金資産純額	27,868千円	31,392千円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年12月31日)	当事業年度 (2020年12月31日)
法定実効税率	30.62%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.52%	0.96%
住民税均等割等	0.35%	0.19%
評価性引当額の増減	9.65%	-
その他	0.33%	0.04%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.17%	31.73%

## (資産除去債務関係)

## 1. 当該資産除去債務の概要

建物賃貸借契約に基づき使用する建物等の、退去時における原状回復義務であります。

## 2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を10年と見積り、割引率を0%として資産除去債務の金額を計算しております。

## 3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)	当事業年度 (自2020年1月1日 至2020年12月31日)
期首残高	5,699千円	-
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
時の経過による調整額	-	-
見積りの変更による調整額	5,699千円	-
資産除去債務の履行による減少額	-	-
期末残高	-	-

## 4. 当該資産除去債務の見積りの変更

前事業年度において、当社の不動産賃貸契約に伴う原状回復義務として計算していた資産除去債務について、転居費用等の新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。この見積りの変更による減少額5,699千円を変更前の資産除去債務残高から減算しております。

(セグメント情報等)

## [セグメント情報]

前事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）及び当事業年度（自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）

当社は、投資運用業、投資助言・代理業を主とした金融サービスの提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## [関連情報]

前事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託運用業務	投資一任業務	情報提供業務	合計
外部顧客への営業収益	1,156,758	-	-	1,156,758

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度（自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託運用業務	投資一任業務	情報提供業務	合計
外部顧客への営業収益	1,285,484	47,067	-	1,332,552

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## [報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

## [報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

## [報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

## ( 関連当事者情報 )

## 1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社

前事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出資金 (百万円)	事業の 内容 又は職業	議決権等 の被所有 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
兄弟 会社	楽天証券 株式会社	東京都 世田谷区	7,495 (2019年12月 31日現在)	インター ネット証 券取引 サービス 業		兼任 2人	当社投資 信託の募 集の取扱 い等	証券投資信 託の代行手 数料等	195,915	未払 費用	34,350
								出向者の 人件費等	20,820		

当事業年度（自 2020年1月1日 至 2020年12月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出資金 (百万円)	事業の 内容 又は職業	議決権等 の被所有 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)		
						役員の 兼任等	事業上 の関係						
兄弟 会社	楽天証券 株式会社	東京都 港区	7,495 (2020年12月 31日現在)	インター ネット証 券取引 サービス 業		兼任 2人	当社投資 信託の募 集の取扱 い等	証券投資信 託の代行手 数料等	223,028	未払 費用	67,471		
								運用受託 報酬	47,067			未収 運用 受託 報酬	8,884
								出向者の 人件費等	11,529				

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 証券投資信託の代行手数料、運用受託報酬については、一般取引先に対する取引条件と同様に決定

しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

### 親会社情報

楽天カード株式会社（非上場）

#### （1株当たり情報）

	前事業年度 （自2019年1月1日 至2019年12月31日）	当事業年度 （自2020年1月1日 至2020年12月31日）
1株当たり純資産額	171,445円72銭	183,721円06銭
1株当たり当期純利益金額	4,922円38銭	10,409円90銭

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	前事業年度 （自2019年1月1日 至2019年12月31日）	当事業年度 （自2020年1月1日 至2020年12月31日）
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(千円)	63,990	135,328
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	63,990	135,328
普通株式の期中平均株式数(株)	13,000.00	13,000.00

#### （重要な後発事象）

該当事項はありません。

### 中間財務諸表

#### （1）中間貸借対照表

（単位：千円）

		当中間会計期間 （2021年6月30日）
資産の部		
流動資産		
現金・預金		1,092,528
金銭の信託		800,000
前払費用		20,244
未収入金		1,092
未収委託者報酬		365,583
未収運用受託報酬		10,437
立替金		57,421
その他		18,153
流動資産計		2,365,461
固定資産		
有形固定資産	1	35,413
器具備品（純額）		35,413
無形固定資産		68,616
ソフトウェア		68,616
投資その他の資産		455,972
投資有価証券		433,146
長期前払費用		623

繰延税金資産	22,202
固定資産計	560,002
資産合計	2,925,464

(単位：千円)

当中間会計期間  
(2021年6月30日)

負債の部	
流動負債	
預り金	14,246
未払金	35,586
未払費用	248,201
未払消費税等	27,098
未払法人税等	15,298
賞与引当金	13,763
役員賞与引当金	1,000
流動負債計	355,194
固定負債	
退職給付引当金	53,876
固定負債計	53,876
負債合計	409,070
純資産の部	
株主資本	
資本金	150,000
資本剰余金	
資本準備金	400,000
その他資本剰余金	229,716
資本剰余金合計	629,716
利益剰余金	
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	1,679,054
利益剰余金合計	1,679,054
株主資本合計	2,458,770
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	57,623
評価・換算差額合計	57,623
純資産合計	2,516,393
負債・純資産合計	2,925,464

## (2) 中間損益計算書

(単位：千円)

当中間会計期間  
(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

営業収益	
委託者報酬	846,481
運用受託報酬	53,299
営業収益計	899,780
営業費用	
支払手数料	276,363
委託費	51,013
広告宣伝費	12,761
通信費	40,012
協会費	1,128

諸会費	108
営業費用計	381,387
一般管理費	351,653
営業利益	166,739
営業外収益	
受取利息	4
有価証券利息	309
投資有価証券売却益	20,551
為替差益	0
営業外収益計	20,866
経常利益	187,605
特別損失	
固定資産除却損	0
投資有価証券評価損	50,121
特別損失計	50,121
税引前中間純利益	137,484
法人税、住民税及び事業税	48,459
法人税等調整額	5,564
中間純利益	94,589

## (3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	150,000	400,000	229,716	629,716
当中間期変動額				
剰余金の配当				
中間純利益				
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）				
当中間期変動額合計	-	-	-	-
当中間期末残高	150,000	400,000	229,716	629,716

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	1,584,464	1,584,464	2,364,180	24,193	24,193	2,388,373
当中間期変動額						
剰余金の配当						
中間純利益	94,589	94,589	94,589			94,589
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）				33,430	33,430	33,430
当中間期変動額合計	94,589	94,589	94,589	33,430	33,430	128,020
当中間期末残高	1,679,054	1,679,054	2,458,770	57,623	57,623	2,516,393

## 注記事項

（重要な会計方針）

1. 資産の評価基準及び評価方法

## (1) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）を採用しております。

## (2) 金銭の信託

時価法によっております。

## 2. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

器具備品 4年～20年

また、取得価額が100千円以上200千円未満の減価償却資産につきましては、3年均等償却によっております。

## (2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

## (3) 長期前払費用

定額法によっております。

## 3. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上することとしております。

## (2) 賞与引当金

従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

## (3) 役員賞与引当金

役員への賞与の支払いに備えるため、将来の支給見込額のうち当中間会計期間末において負担すべき額を計上しております。

## (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

## 4. その他中間財務諸表作成の為の基本となる重要な事項

## (1) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、資産に係る控除対象外消費税及び地方消費税は当中間会計期間の費用として処理しております。

## (2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

また、当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

## (中間貸借対照表関係)

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

当中間会計期間（2021年6月30日）	
有形固定資産の減価償却累計額	15,241千円

## (中間損益計算書関係)

## 1 減価償却実施額

当中間会計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	
有形固定資産	5,493千円
無形固定資産	10,799千円
合 計	16,292千円

## (中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式	13,000株	-	-	13,000株

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

## (リース取引関係)

<借主側>

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

当中間会計期間末 2021年6月30日	
1年内	32,460千円
1年超	46,280千円
合 計	78,740千円

## (金融商品関係)

当中間会計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

金融商品の時価等に関する事項

2021年6月30日における中間貸借対照表計上額、時価、並びにこれらの差額については次の通りです。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
<b>資産</b>			
(1) 現金・預金	1,092,528	1,092,528	-
(2) 金銭の信託	800,000	800,000	-
(3) 未収委託者報酬	365,583	365,583	-
(4) 未収運用受託報酬	10,437	10,437	-
(5) 投資有価証券 その他有価証券	433,146	433,146	-
<b>資産計</b>	<b>2,701,695</b>	<b>2,701,695</b>	<b>-</b>
<b>負債</b>			
(1) 未払金	35,586	35,586	-
(2) 未払費用	248,201	248,201	-
(3) 未払消費税等	27,098	27,098	-
(4) 未払法人税等	15,298	15,298	-
<b>負債計</b>	<b>326,184</b>	<b>326,184</b>	<b>-</b>

(注) 金融商品の時価算定の方法

資産

(1)現金・預金 (2)金銭の信託 (3)未収委託者報酬 (4)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5)投資有価証券

投資信託は公表されている基準価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1)未払金 (2)未払費用 (3)未払消費税等 (4)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と類似していることから、当該帳簿価額によっております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

当中間会計期間(自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)

区分	中間貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	400,691	317,600	83,091
小計	400,691	317,600	83,091
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	32,454	32,491	37
小計	32,454	32,491	37
合計	433,146	350,091	83,054

2. 減損処理を行った有価証券

当中間会計期間において、有価証券について50,121千円(その他有価証券の投資信託受益証券50,121千円)減損処理を行っております。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

[セグメント情報]

当中間会計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

当社は、投資運用業、投資助言・代理業を主とした金融サービスの提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

当中間会計期間（自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	投資信託運用業務	投資一任業務	合計
外部顧客への営業収益	846,481	53,299	899,780

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載は省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

該当事項はありません。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	当中間会計期間 （自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）
1株当たり純資産額	193,568円75銭
1株当たり中間純利益金額	7,276円13銭

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当中間会計期間 （自 2021年1月1日 至 2021年6月30日）
1株当たり中間純利益金額	

中間純利益金額(千円)	94,589
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	94,589
普通株式の期中平均株式数(株)	13,000.00

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

### 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

<更新後>

#### (1) 受託会社

名 称	資本金の額 (2021年3月末現在)	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社	342,037百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

<再信託受託会社の概要>

名称 : 株式会社日本カストディ銀行

資本金の額 : 51,000百万円(2021年3月末現在)

事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的 : 原信託契約にかかる信託業務の一部(信託財産の管理)を原信託受託者から再信託受託者(株式会社日本カストディ銀行)へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託者へ移管することを目的とします。

#### (2) 販売会社

名 称	資本金の額 (2021年3月末現在)	事業の内容
楽天証券株式会社	7,495百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

## 独立監査人の監査報告書

2021年11月5日

楽天投信投資顧問株式会社  
取締役会御中EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 雅人  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているグローバルAZファンド Aコースの2021年5月14日から2021年9月21日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、グローバルAZファンド Aコースの2021年9月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、楽天投信投資顧問株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

2021年11月5日

楽天投信投資顧問株式会社  
取締役会御中EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 雅人  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているグローバルAZファンド Bコースの2021年5月14日から2021年9月21日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、グローバルAZファンド Bコースの2021年9月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、楽天投信投資顧問株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

2021年11月5日

楽天投信投資顧問株式会社  
取締役会御中EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 雅人  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているグローバルAZファンド Cコースの2021年5月14日から2021年9月21日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、グローバルAZファンド Cコースの2021年9月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、楽天投信投資顧問株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

2021年11月5日

楽天投信投資顧問株式会社  
取締役会御中EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 雅人  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているグローバルAZファンド Dコースの2021年5月14日から2021年9月21日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、グローバルAZファンド Dコースの2021年9月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、楽天投信投資顧問株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

2021年11月5日

楽天投信投資顧問株式会社  
取締役会御中EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 雅人  
業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているグローバルAZファンド Eコースの2021年5月14日から2021年9月21日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、グローバルAZファンド Eコースの2021年9月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、楽天投信投資顧問株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

楽天投信投資顧問株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

# 独立監査人の監査報告書

2021年2月22日

楽天投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士 福村 寛 印

業務執行社員

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている楽天投信投資顧問株式会社の2020年1月1日から2020年12月31日までの第15期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、楽天投信投資顧問株式会社の2020年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を

適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

2021年8月24日

楽天投信投資顧問株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 福村 寛 印  
業務執行社員

### 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている楽天投信投資顧問株式会社の2021年1月1日から2021年12月31日までの第16期事業年度の中間会計期間（2021年1月1日から2021年6月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、楽天投信投資顧問株式会社の2021年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2021年1月1日から2021年6月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に

対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注)1. 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。